

平成 29 年度 文部科学省 委託事業

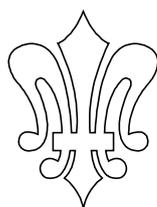
「多様な学習を支援する高等学校の推進事業」

研究成果報告書

# 通信制の支援体制構築とアセスメント方法の開発

～外部機関と連携した支援体制を設計し、

それをアセスメントによってより効果的な取り組みに改善する試み～



学校法人 白百合学園

仙台白百合学園高等学校 通信制課程 [エンカレッジコース]

## 《巻頭言》

# 通信制課程、開設5年目に寄せて

仙台白百合学園中学・高等学校 校長 渡辺瑞穂

仙台白百合学園中学・高等学校は、2018年度(平成30年度)に創立125年を迎えました。この学園に、平成26年(2014年)、「通信制課程〔エンカレッジコース〕」が開設され、4年が経過しました。今、全日制という教育制度に適応できない生徒が増加しています。そうした生徒こそ切り捨てることなく積極的に迎え入れるのがカトリック学校の本来の姿だと確信し、一人ひとりに柔軟に対応できる教育システム、通信制課程を立ち上げました。

エンカレッジコースが目指すのは、カトリック学校としての通信制です。必修科目としての「宗教」の他にも、クリスマス会、修養会などの行事や、教会が主催するボランティアなど、カトリック学校ならではの体験ができ、こうした学びを通して生徒たちは、生きる上での大切な価値観を育んできました。

こうした歩みの中で、平成27年12月に、文部科学省から「多様な学習を支援する高等学校の推進事業」の研究指定校として調査研究を委託されました。研究テーマは、「外部機関と連携した通信制の支援体制の構築とアセスメント方法の開発」です。社会の変化とともに多様化する生徒たちを支援するためには、学校が社会の力も借り、“チーム学校”として教育力を高めることが急務であると認識し、様々な外部機関と連携した体験プログラムを設計し、それをアセスメントによってより効果的な取り組みに改善する試みを行ってきました。

この委託研究も、今年度、最終年度の調査を終えることができました。この研究を通して、学校と外部機関が連携し教育活動の幅を広げることが、生徒の人間力と社会性を大きく育てていくことにつながることを実証することができました。その研究過程をご紹介する報告書ができあがりました。教職員一同まだ微力ではありますが、この研究を通して生徒達が成長していく姿こそひとつの成果と考えています。是非ご覧ください。

本校の教育は、貧しく教育を受けることが困難な人々へ奉仕することから始まったシャルトル聖パウロ修道女会の精神が原点になっています。これからも、一人ひとりに寄り添い社会の多方面の方々の力もお借りしながら、生徒が神様から授かったタレントを大事に育てるお手伝いに邁進していく所存です。今後とも皆様方の温かいご支援とご鞭撻のほどをよろしくお願い申し上げます。

# 《目 次》

## 《巻頭言》

### I 本校の概要

- 1 仙台白百合学園について
- 2 通信制課程の開設と、その目的
- 3 通信制課程〔エンカレッジコース〕の概要と特色

### II 調査研究の概要

- 1 調査研究課題名
- 2 調査研究のねらい
- 3 調査研究の概要
- 4 調査研究の検討会議構成メンバー
- 5 調査研究の実施日程

### III 調査研究の実施状況

- 1 前年度のアセスメント結果の確認
- 2 前年度のアセスメント結果に基づいた運営組織と学習プログラムの設計
  - (1) 外部機関と連携した運営組織の設計
  - (2) 外部機関と連携した学習プログラムと探究活動の設計と実施状況
  - (3) 外部機関と連携した教師の教育力向上のための会議や研修会の設定
- 3 上記の一連の取り組みに対するアセスメントの実施
  - (1) 生徒の資質向上のためのアセスメント方法の開発
  - (2) アセスメントの結果と分析
  - (3) 外部助言者を招いてのアセスメント検討会議の内容
- 4 総括と改善案策定
  - (1) 今年度の取り組みについての総括
  - (2) 次年度に向けての改善案策定

## 《調査研究を終えて》

# I 本校の概要

## 1 仙台白百合学園について

学校法人「白百合学園」は、現在、函館、盛岡、仙台、東京、藤沢、強羅、八代に広がり、幼稚園から大学院までを運営しながらカトリックの教えに基づく全人教育を行っている。仙台白百合学園は、1893年に創立され、その後、中学・高等学校に幼稚園や小学校、大学(仙台白百合女子大学)が加わり、2018年には創立125年を迎える。

白百合学園の教育の原点は、その設立母体であるシャルトル聖パウロ修道女会の精神にさかのぼる。この修道女会は、17世紀末のフランス、ルイ王朝の華やかな文化の陰で、貧困に苦しみ、教育の機会に恵まれない人々へ奉仕することを目的に設立された。その後、「社会から顧みられず、忘れられがちな人々への奉仕を優先する生き方」をモットーとして、現在、世界37か国で、教育・福祉・医療の仕事に従事している。「愛の心を持って人類社会に奉仕できる女性を育てる」という本校の建学の精神は、この修道女会の精神から発している。

## 2 通信制課程の開設と、その目的

この仙台白百合学園の高等学校に、平成26年(2014年)、「通信制課程〔エンカレッジコース〕」が誕生し、3年が経過した。全日制課程という教育制度に適應できない生徒が増加する中で、そのような生徒たちこそ迎え入れ支援することが、カトリック学校の本来の姿だと考えている。全日制課程に通信制課程を加えることで、様々な層の生徒を受け入れ、一人一人の「学びたいという意欲」に応じて白百合学園の教育の可能性を一層広げていきたいと考えている。

## 3 通信制課程〔エンカレッジコース〕の概要と特色

### ◆広域通信制課程

入学対象者 ; 宮城県、北海道、青森県、秋田県、岩手県、山形県、福島県、新潟県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県に在住する女子

### ◆ミッションスクールとしての通信制課程

今、様々な事情で全日制の教育システムに適應できない生徒たちが増えている。そうした生徒たちをも迎え入れ支援することがカトリック学校の本来の姿だと考えている。必修科目として「宗教」を学ぶほかにも、クリスマス会、修養会などの行事や、教会が主催するボランティアなど、ミッションスクールならではの体験ができる。

### ◆女子だけの落ち着いた教育環境

本校通信制課程は、全国でも数少ない女子だけの通信制である。そこには女子だけで学ぶ“安心感”があり、女子が持っている特性が豊かに育つ環境がある。

### ◆豊富な社会体験

本校では、水曜日と土曜日にスクーリングが設定されているが、それ以外の曜日を利用して、外部機関と連携した様々な社会体験の機会を設けている。NPOと共に被災地を訪れ現地の方々と交流するワークショップや、施設訪問、路上生活者のための炊き出しなどのボランティア活動も行われ、生徒の社会性を育てている。

### ◆様々な校内体験講座

スクーリング以外にも、資格取得講座、学習サポート講座、興味を広げる参加型講座などを設定し、生徒の興味関心を広げている。今年度は、英語力アップ講座(基礎編・応用編)、古典基礎講座、百人一首講座、ニュース解説講座、フランス語講座、パッチワーク講座、アロマでリラックス講座、ドラム講座などが開講されている。

## II 調査研究の概要

### 1 調査研究課題名

外部機関と連携した通信制の支援体制の構築とアセスメント方法の開発  
～外部機関と連携した支援体制を設計し、  
それをアセスメントによってより効果的な取り組みに改善する試み～

### 2 調査研究のねらい

- 1 外部機関との連携と協働によって、通信制に通う生徒の学ぶ意欲を向上させるために有効な支援システムを設計する。
- 2 特に外部機関と連携して体験活動を重視する学習プログラムを設計し、生徒の社会性や進路に対する意識を高める。
- 3 その効果を検証するためのアセスメント方法を開発する。
- 4 アセスメントによって、より有効性のある通信制高校の支援システムを構築する。

### 3 調査研究の概要

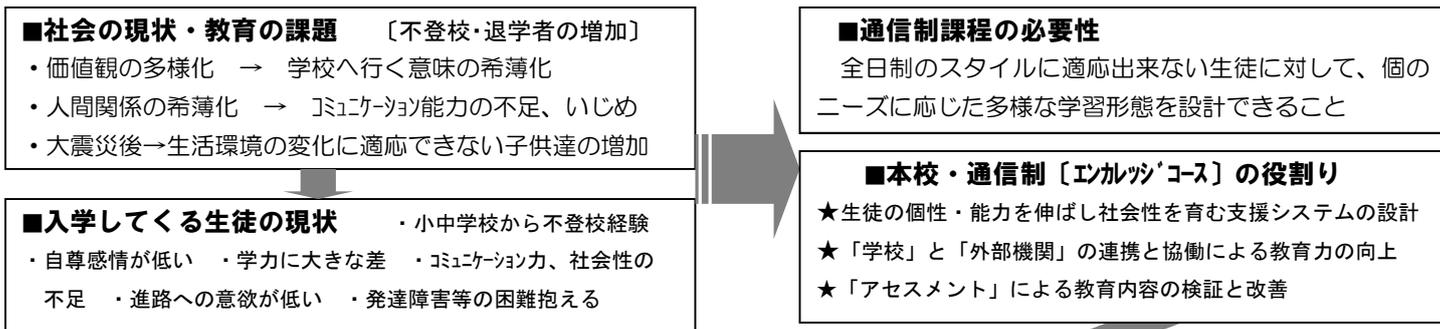
宮城県ではここ数年、東日本大震災の影響もあり、中学生の不登校率がワーストに近い状態が続いている。こうした不登校状態にある生徒のセーフティネットとして通信制高校が注目されているが、単に卒業を支援するだけでなく、生徒の社会性を回復し将来への展望を持たせるための、より効果的な支援体制の設計が急がれている。昨年度の本校の調査研究では、外部機関と連携し、運営組織や学習プログラムを設計してアセスメントを行ったが、その結果分かった事は、「体験活動」が生徒に与える影響の大きさである。体験活動を通して人や社会とつながることは、生徒の視野を広め社会への関心を高め、生徒の進路意識の向上に大きく寄与する結果となった。今年度の調査研究では、外部機関と連携し、より効果的な体験活動を設計して実践した。「通信制」は、全日制とは異なり、体験活動の時間を十分に生み出すことができる。この通信制の特性を活かして、通信制だからこそ可能な支援体制を構築したい。また、アセスメントも、昨年度のものをさらに改良し、より効果的な方法の開発を試みた。その過程を通して、生徒の成長に有効な「運営組織」や「学習プログラム」などの総体的支援体制を構築し、より教育効果を上げることができる通信制通信制高校の在り方を探究した。

(調査研究の概要図は下記のとおり)

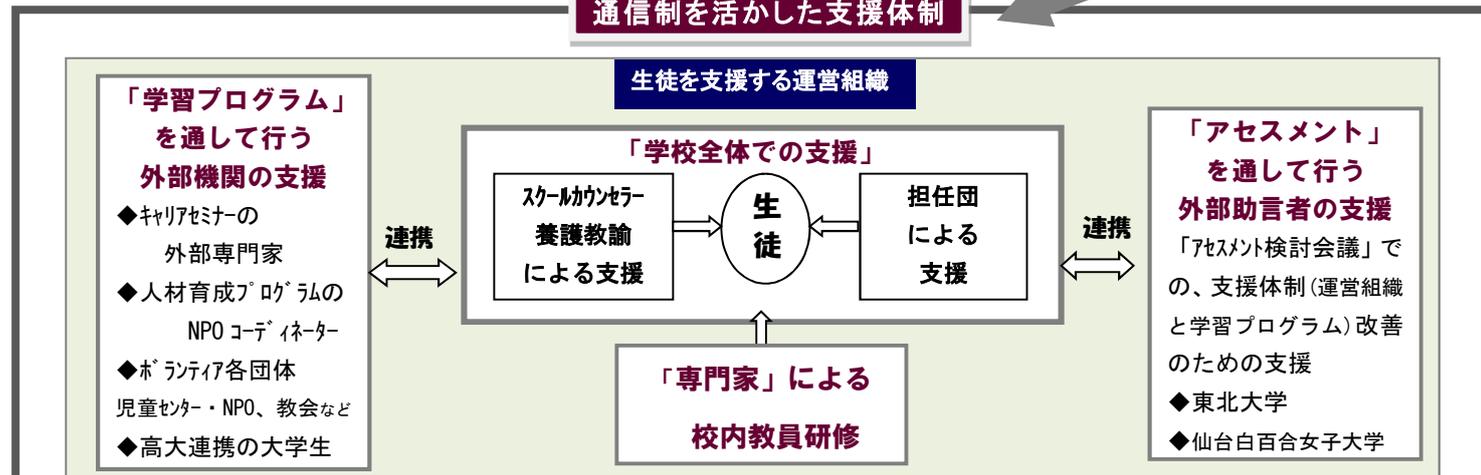
## 【調査研究 概要図】

### 研究テーマ 「外部機関と連携した通信制の支援体制の構築とアセスメント方法の開発」

～外部機関と連携した支援体制を設計し、それをアセスメントによってより効果的な取り組みに改善する試み～



### 通信制を活かした支援体制



### 一人ひとりの個性・能力を活かし、社会性を育む学習プログラム

#### 外部機関との連携と協働

カテゴリー	プログラム名	活動内容
専門家によるワークショップ型	キャリアラニング・セミナー	キャリアカウンセラーや様々な職業人を学校に招いてのワークショップ
交流体験・自然体験型	野外環境コミュニティ体験講座	外部コーディネーターと被災地・石巻を訪れ、交流や自然体験を行う
ボランティア活動型	炊き出しボランティア	NPO・教会と連携した路上生活者のための炊き出し
	施設訪問	特別養護老人ホームの入居者との交流
	With Kids ボランティア	児童センターや併設小学校での子供たちと交流
大学生との座談会型	高大連携「学び直し」	年齢の近い大学生とリラックスした空間で行う情報交換会や勉強会
座学的体験講座型	EOP 体験講座、修養会等の行事	外部講師によるワークショップなどの体験講座や修養会、クリスマス会
保護者対象コナング型	専門家によるセミナー	臨床心理系専門家による「親力向上」セミナー

#### 視野を広げ、能動的な学習姿勢を育む探究活動

「自己理解力、コミュニケーション力、探究心」を育成する「総合的な学習の時間」の展開

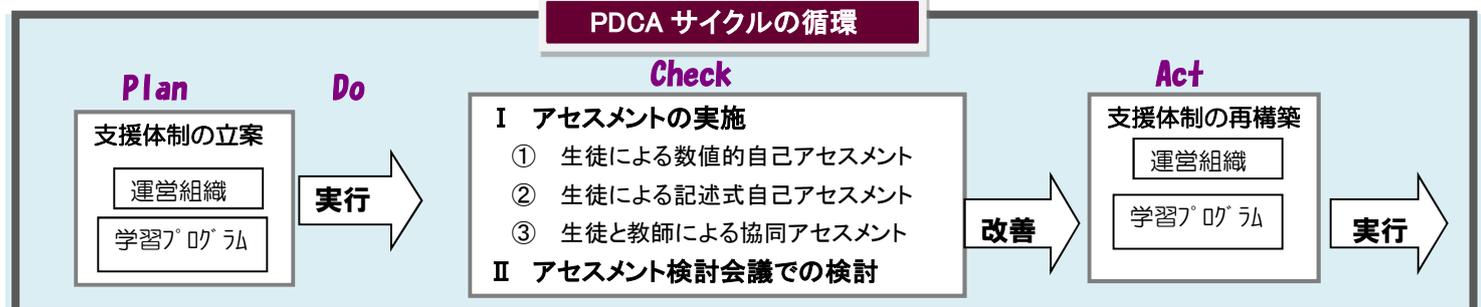
- 総合 A-1 “自己理解シート”の活用
- 総合 A-2 隣人につながるためのワークショップ
- 総合 BC 社会につながるためのワークショップ
- 総合 D 私の生き方、私の未来

#### 学校設定科目「グローバル・スタディーズ」の開発

～地球規模の諸課題の問題解決を考える探究活動～

- 1 “身近なもの” から世界を考える ① (ケイタイ)
- 2 “身近なもの” から世界を考える ② (バナナ)
- 3 探究活動 “私”の一步が社会を変える!?
- 4 探究活動発表会

### PDCA サイクルの循環



#### 4 調査研究の検討会議メンバー

氏名	勤務先・職名等	勤務先住所
渡辺瑞穂	仙台白百合学園中学・高等学校 校長	仙台市泉区紫山1-2-1
阿部和彦	同上 高等学校 通信制課程 教頭	同上
宮崎 哲	同上 校務担当 (英語科)	同上
清田拓郎	同上 教務担当 (数学科・情報科)	同上
鈴木有子	同上 特別活動担当 (英語科)	同上
渡邊優子	同上 校務担当 (国語科)	同上
阿部眞貴	同上 庶務担当	同上
戸村たつひ	同上 養護教諭	同上
氏家忠俊	同上 事務長	同上
平井美弥	スクールカウンセラー (東北大学大学院教育学研究科所属)	仙台市青葉区川内27-1
高橋 満	東北大学大学院教育学研究科 (学科長・教授)	仙台市青葉区川内27-1
牛渡 淳	仙台白百合女子大学 (学長・人間学部教授) (中央教育審議会委員)	仙台市泉区本町6-1

#### 5 調査研究の実施日程

29年度	実施状況						
	キャリアプランニング セミナー	野外環境 コミュニティー体験	ボランティア	他の諸事業	全通研 地区通研 教員・生徒研修	校内 教員研修	アセスメント
4月		説明会					
5月	セミナー (1~3回)	被災地訪問①		高大連携 EOP			数値的自己評価
6月	セミナー (1~3回)	被災地訪問②	施設訪問① 炊き出し	高大連携 EOP	全通研 研究協議会 全国大会 (島根県松江)	校内 教員研修 ①	
7月	セミナー (1~3回)	被災地訪問③	施設訪問② 炊き出し With Kids 児童センター	保護者セミナー 高大連携 EOP	東北 南部三県 高等学校 通信制 生徒研修会		
8月		被災地訪問④	With Kids 小学校	EOP			
9月			施設訪問③				
10月	セミナー (1~3回)	被災地訪問⑤	施設訪問④ 炊き出し	高大連携 EOP	地区通研 生徒生活体験 発表会 (八戸)	校内 教員研修 ②	中間アセスメント 検討会議
11月	セミナー (1~3回)	被災地訪問⑥	施設訪問⑤ 炊き出し	修養会 EOP			数値的自己評価 記述式自己評価
12月	セミナー (1~3回)	被災地訪問⑦	炊き出し	クリスマス会 高大連携 EOP			生徒と教師 による 協同アセスメント
1月			炊き出し	高大連携 EOP	全通研 研修会 (東京)		アセスメント 検討会議Ⅰ
2月							アセスメント 検討会議Ⅱ
3月							

## Ⅱ 調査研究の実施状況

### 《調査研究の方法》

#### 1. 前年度のアセスメント結果の確認

#### 2. 前年度のアセスメント結果に基づいた運営組織と学習プログラムの設計

(1) 外部機関と連携した運営組織の設定

(2) 外部機関と連携した学習プログラムと探究活動の設計と実施状況

① 生徒の資質を伸ばすための「指標」作り

② 「指標」に基づいた、外部機関と連携した学習プログラムの設計と実施状況

(1) キャリアプランニング・セミナー

(2) 野外環境コミュニティー体験講座

(3) ボランティア体験活動

① 炊き出しボランティア

② 施設訪問

③ With Kids ボランティア

(4) 高大連携 座談会

(5) EOP 体験講座

(6) 修養会

(7) クリスマス会

(8) 保護者向けワークショップ

③ 「指標」に基づいた、探究活動の設計と実施状況

④ 学習プログラムや探究活動時の「設備備品」の使用状況

(3) 外部機関と連携した教師の教育力向上のための研修会の設定

#### 3. 上記の一連の取り組みに対するアセスメントの実施

(1) 生徒の資質向上のためのアセスメント方法の開発

①アセスメントの手順

②アセスメントの方法(5月、11月のアセスメント用紙)

(2) アセスメントの結果と分析

アセスメントⅠ 5月、11月の「学校生活への意欲の変化」

アセスメントⅡ 5月、11月の数値的自己評価の変化

アセスメントⅢ 学習プログラム毎のアセスメント

アセスメントⅣ 「記述式」アセスメント

アセスメントⅤ 「保護者アンケート」から

アセスメントⅥ アセスメント検討会議Ⅰ(本校スタッフによる検討会議)

アセスメントⅦ 生徒1人ひとりに焦点を当てたケーススタディー

(3) 外部助言者を招いてのアセスメント検討会議の内容

①中間アセスメント検討会議(10月)

②アセスメント検討会議Ⅱ(1月)

#### 4. 総括と改善案策定

(1) 今年度の取り組みについての総括

(2) 次年度に向けての改善案策定

# 1. 前年度のアセスメント結果の確認

## (1) H28 年度の取り組みについての総括

- ・〔生徒の学習意欲の向上〕 今年度の様々な取り組みを通して、「本校に入学する前に比べて学校生活を意欲的に送ることが出来るようになった」生徒は、「当てはまる」が 51%、「どちらかといえば当てはまる」が 32%で、合計すると 83%の生徒が学校生活に意欲を持つようになった。
- ・〔教員の生徒・保護者に対する姿勢〕 生徒、保護者の感想から、教員に日々大切にされていることへの感謝の気持ち読み取れる。そのことが、生徒の自尊感情を高め、心を安定させ、上記の学校生活への意欲につながったものと思われる。
- ・〔社会体験が伴う学習プログラムの効果〕 今年度の取り組みの中でも、特に生徒に影響を与えたものとしてあげられるのが、「野外環境コミュニティー体験講座」や「キャリア・プランニングセミナー」「施設訪問」「With Kids ボランティア」「炊き出しボランティア」などの、社会で活動する人々と接し、学校の外で行う社会体験が伴うプログラムであった。
- ・〔生徒の進路意識の向上に寄与したプログラム〕 「自分の生き方や進路に影響を与えたもの」としても、上述の社会体験プログラムがあげられる。また、カトリック校として行っている必修科目「宗教」や宗教行事も生徒の生き方に影響を与えていることが分かった。
- ・〔生徒の進学状況と学習プログラムの関係〕 今年度は 28 人が卒業したが、そのうち、体調により進学しない生徒を除けばほとんどの生徒が、大学、短大、専門学校等に進学した。生徒の記述式自己アセスメントを見れば、今年度の学習プログラムが、生徒の進路意識の向上に寄与したことが分かる。
- ・〔学習プログラムの運用の仕方と、通信制という教育システムを活かす方法〕 上記の学習プログラムの運用の仕方として今年度行ったのは、スクーリングを週 2 回(水曜・土曜)に設定、主に月曜日は校外での学習プログラムに、火、木、金は、校内で行う学習プログラムに充てた。こうすることで、週 1,2 回程度のスクーリングのための登校日以外の日を体験的プログラムに利用し、通信制という柔軟な教育システムを最大限に活用する方法をとることができた。
- ・〔学習プログラムの精選〕 複数の学習プログラムを実施し、それぞれが生徒に与えた影響、効果を検証することができたが、スタッフ教員の数から見ると、全体としてプログラムの種類や回数が多すぎ、内容をこなすのに精一杯な面があった。プログラムを精選し、バランスのとれた年間プログラムを編成する必要がある。
- ・〔登校できない生徒への対策〕 学習プログラムに積極的に参加した生徒には資質の向上が見られるが、一方で様々な理由で登校できずスクーリングが精一杯という生徒もいてその格差は大きく、不登校気味の生徒に合わせたプログラムの検討も必要。
- ・〔探究活動の重要性〕 グローバルスタディーズや情報応用などの探究活動によって、生徒の学習に取り組む主体性、積極性が育成された。
- ・〔教員研修の必要性〕 ・生徒の現状や教員の経験不足からから見れば、精神科医や臨床心理士等の専門家による教員研修の必要性を感じた。 ・また、全通研、地区通研主催の研修会は、教員の視野を広め、生徒を支援するための資質を向上させるものとして有用であった。
- ・〔保護者の教育力の向上〕 保護者にとっても、本校に入学してからの子どもの変化には概ね、肯定的に捉えている。また、保護者対象の研修会などに対する評価も高い。

## (2) H29 年度に向けての改善案

### 学習プログラムの設計と立案について

#### 【目標設定】

- ・「学校の教育目標」、「通信制課程の教育目標」、「本研究の目標(ねらい)」、「各プログラムのねらい」のそれぞれの関連性を明確にする。

#### 【社会体験の重視】

- ・今年度の取り組みでも、社会体験は生徒に大きな影響を与えた。次年度も、学校から外に出て社会で活動する人々と接する社会体験プログラムを重視する。

#### 【生徒の主体性を育てる工夫】

- ・生徒の主体性を育てるために、教員側からプログラムを与えるのではなく、「企画段階から生徒に参加させる」「振り返りの時間を設定する」「生徒も参加して成果物を作る」などを通して、生徒の主体性を育て達成感を与えるプログラム設計をする。

#### 【自己表現型プログラムの導入】

- ・認知的なプログラムが多い中で、演劇・音楽・美術など自己表現型のプログラムを検討する。

#### 【プログラムに参加できない生徒への対策】

- ・学習プログラムを設計しても、積極的に参加する生徒がいる一方で、様々な事情で充分には参加できない生徒もいるのが現状。そうした生徒にも対応するプログラムの工夫が必要。

#### 【通信制という教育システムを活かす、学習プログラムの運用方法】

- ・本校は、スクーリングを週2回設定しているが、それ以外の曜日に学習プログラムを配置し、全日制にはできない通信制ならではの教育システムを開発する。

#### 【学習プログラムの精選】

- ・教員にとっても生徒にとっても、より集中して学習効果を上げるために、年間を通した学習プログラムの種類や回数を精選する。

### それぞれの学習プログラムについての改善案

#### 《キャリアプランニング・セミナー》

- ・全員参加方式ではなく、任意参加型で行う。
- ・講話という形式だけではなく、生徒の能動性を重視し、ものづくりや体を動かすような体験講座も取り入れる。
- ・単発的な講座だけでなく、継続的な企画も検討する。

#### 《野外環境コミュニティー体験講座》

- ・事前事後学習をより充実させる。
- ・プログラムの企画段階から生徒を参加させ、生徒の主体性を育てる。
- ・成果物作成にあたって、生徒に企画、制作を担当させ、達成感を与える。
- ・大学生と一緒に活動する合宿プログラムは、今年度は行わない。

#### 《施設訪問》

- ・訪問し傾聴するだけでなく、「ものを作り訪問時持参する」「メッセージカードを送る」などの形式も取り入れ、ボランティアの幅を広げる。

## 教員研修、保護者向けセミナーについて

### 《教員研修》

- ・生徒の現状に対する教員の経験不足からから見れば、精神科医や臨床心理士等の専門家による教員研修が必要。「運営組織」の中に、外部と連携した「教員研修」を位置づける。

### 《保護者セミナー》

- ・精神医学、性教育、臨床心理などの専門家も含め、保護者にとって有用なセミナーの内容を幅広く検討する。

## アセスメントについて

### 〔数値的自己評価〕

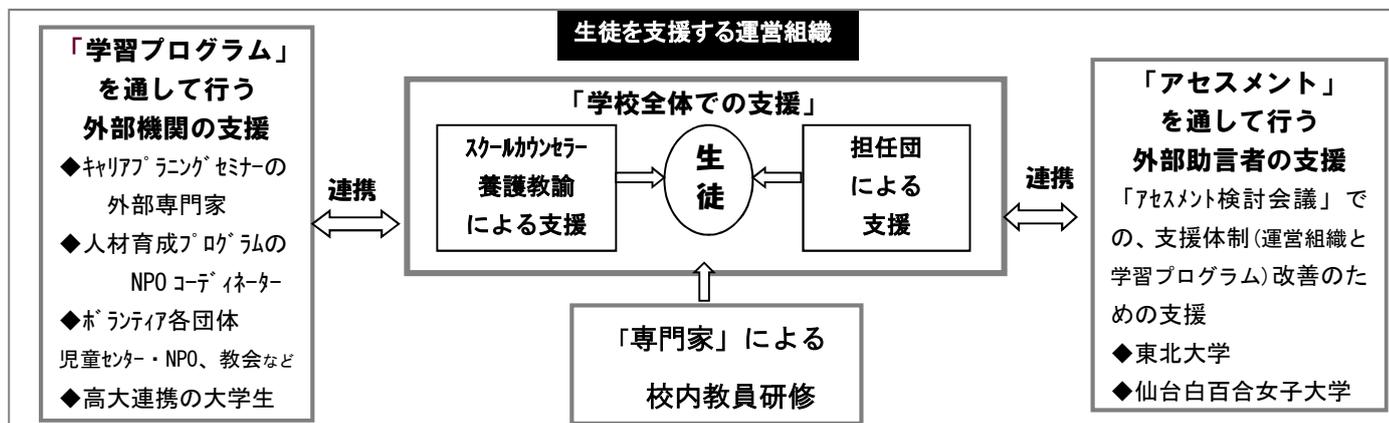
- ・指標の内容や項目数を、生徒の現状に合わせ再検討する。
- ・レーダーチャートについては、生徒の変化をより明瞭にするため、項目数や項目内容を吟味する。

### 〔記述式アセスメントについて〕

- ・記述式においても、ある項目については5月と11月に同じアンケートを取り生徒の変化を比較する。
- ・「異世代交流」の教育的効果の検証や、卒業後の追跡調査などのアセスメントも検討する。

## 2. 前年度のアセスメント結果に基づいた運営組織と 学習プログラムの設計

### (1) 外部機関と連携した運営組織の設定



### (2) 外部機関と連携した学習プログラムと探究活動の設計と実施状況

#### ① 生徒の資質を伸ばすための「指標」作り

★生徒の資質の向上を判断するための基本的な指標は次の事項である。

- 1 自分の個性に気付き、自分の良さを受け入れることができる。 **【自己理解力】**
- 2 他者の意見を理解し、自分の考えを伝えるコミュニケーションをとることができる。 **【コミュニケーション力】**
- 3 社会の一員であることを意識し、自分を社会に活かそうとする志を持つことができる。 **【社会参画意識】**
- 4 弱い立場にある人々へ共感し、他者のために奉仕することができる。 **【弱者への視点と奉仕の精神】**
- 5 将来、自分を社会に活かすための確かな学力を身につけている。 **【確かな学力】**

※これら5つの指標を更に細分化した15の指標は、後述の〔資料〕「生徒による数値的自己アセスメント表」参照

## ② 「指標」に基づいた、外部機関と連携した学習プログラムの設計と実施状況

★「外部連携プログラム」を次の6つのカテゴリーに分け計画案を策定、どのような連携の仕方が教育効果を上げることができるかを検証する。

- ① 専門家によるワークショップ型
- ② 地域の人々との交流体験・自然体験型
- ③ ボランティア活動型
- ④ 大学生との座談会型
- ⑤ 外部講師による座学的体験講座型
- ⑥ 保護者対象セミナー

### 外部機関と連携した主な学習プログラムと育成する資質

カテゴリー	プログラム名	外部機関との連携の形態	活動内容	向上を期待する資質
ワークショップによる型	キャリアプランニングセミナー	NPO「ハーベスト」の協力による外部専門家派遣	心理カウンセラー、セラピスト、認定コーチ、キャリアカウンセラーなどの専門家を学校に招いてのワークショップ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己理解力・自己肯定感</li> <li>・コミュニケーション力</li> <li>・プレゼンテーション力</li> <li>・社会への興味・関心</li> <li>・進路への意欲</li> </ul>
自然体験型 交流体験型	野外環境コミュニティ体験講座	NPO「スマイル・シード」理事長によるコーディネート	NPOの外部人材のコーディネートにより被災地・石巻や網地島を訪れ、交流やキャンプ、自然体験を行う	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域・被災地への関心</li> <li>・自然環境への関心</li> <li>・課題解決のための行動力</li> <li>・自分の生き方の探究</li> <li>・社会参画意識</li> </ul>
活動型	炊き出しボランティア	NPO「萌友」とカトリック教会の協力	NPO・教会と連携した路上生活者のための炊き出し	<ul style="list-style-type: none"> <li>・弱い立場の人々への共感</li> <li>・社会への関心</li> <li>・奉仕の精神と実践</li> <li>・社会参画意識と行動力</li> <li>・コミュニケーション力</li> </ul>
	施設訪問	特別養護老人ホーム「暁星園」の協力	特別養護老人ホームの入居者との交流	
	With Kidsボランティア	「寺岡児童センター」「併設小学校」の協力	児童センターや小学校での子供たちと交流	
座談会型	大学生との高大連携「学び直しと発展学習」	仙台白百合女子大との連携	姉妹校の大学生が毎週、来校、年齢の近い大学生とリラックスした空間で行う情報交換会や勉強会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーション力</li> <li>・大学への興味関心</li> <li>・基礎学力の向上</li> <li>・学習する意欲</li> <li>・進路への関心</li> </ul>
体験講座型	座学的 ◆EOP (エンカレッジ・オリジナルプログラム) ・パッチワーク講座 ◆修養会 ◆クリスマス会	・パッチワーク教室講師の雇用 ・外部講師の派遣	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外部講師による、パッチワークの体験講座</li> <li>・外部講師派遣による「自己を見つめ生き方を考える」体験講座</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講座を通して得られたそれぞれのスキル</li> <li>・グループ学習を通して培う協力性</li> <li>・弱者への視点、奉仕の精神</li> </ul>
セミナー型	保護者対象 「親力向上」セミナー	外部専門家(精神科医等)による保護者指導	不登校、子どもへの接し方等についての親の勉強会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・親の医学的知識の獲得</li> <li>・親の安心感、自信の回復</li> <li>・親子関係の向上</li> <li>・子どもの自尊感情、向上心の高まり</li> </ul>

## (1) キャリアプランニング・セミナー、実施状況 【★専門家によるワークショップ型】

### 〔ねらいと概要〕

主に月 1 回程度、セラピスト、認定コーチや様々な職業に従事している方を招いて、心の持ち方、コミュニケーションの取り方、社会との関わり方などについて学んだ。不登校経験者や自尊心が低い生徒、学習や進路への意欲が低い生徒の自己肯定感を高め、進路への意識、社会参画意識を育てる試み。29 年度の講師は次の 8 人を招聘した。D-PROJECT 以外は昨年に引き続きお願いした講師である。

また、昨年度のアセスメントの結果より、今年度は単発的な講座だけでなく継続的な講座も企画した。参加形態も、全員必修ではなく、生徒の自発性を尊重し「合計 13 回のうち 3 回以上を選択」とした。

### 【連携した外部機関、外部人材】

#### 《講師》

茅原田久仁子氏	株式会社ハッピーウーマン代表取締役／セラピスト
西城 あや氏	ドリームフィールド／ 認定コーチ
志伯 暁子氏	キャリアトーク代表／話し方コンサルタント
高木 亨 氏	社会貢献型通所介護事務所「おちゃっこ倶楽部」代表取締役／介護福祉士
吉田 由美氏	フランス食堂 Chez Hamonie オーナー／ パティシエ
工藤 博氏	K design 代表
浦沢みよこ氏	株式会社インターサポート代表取締役／留学カウンセラー
D-PROJECT	打楽器ワークショップ団体(代表:斎藤寛氏)

### 【実施状況】

第 1 回	5/25(水) 11:00～13:00	・全体説明会 ・基調講演 ・今年度の講師陣紹介 基調講演 講師：浦沢みよこ氏
第 2 回	5/31(水) 11:00～12:00	講演(コーチング)「個育てコーチング」 講師; 西城あや氏
	11:00～13:00	講演(校外)「工藤さんと木の話」① (森に行って木に触れてみよう) 講師; 工藤博氏
第 3 回	6/7(水) 11:00～13:00	ワークショップ「コミュニケーション」 講師：志伯暁子氏
第 4 回	6/14(水) 11:00～12:00	講演; 「留学」 講師：浦沢みよこ氏
第 5 回	6/21(水) 11:00～12:00	ワークショップ「心のヨガ」① 講師; 茅原田久仁子氏
	12:00～13:00	講演; 「工藤さんと木の話」② 講師; 工藤博氏
第 6 回	7/5(水) 11:00～13:00	ワークショップ「笑顔になれるお菓子作り」①講師; 吉田由美氏
第 7 回	10/4(水) 11:00～13:00	ワークショップ「工藤さんと木の話」③ (木のスプーン作り) 講師; 工藤博氏
第 8 回	10/11(水) 12:00～13:00	ワークショップ「工藤さんと木の話」④ (作ったスプーンでカレーを食べよう) 講師; 工藤博氏
第 9 回	10/18(水) 11:00～12:00	ワークショップ「心のヨガ」② 講師; 茅原田久仁子氏
第 10 回	10/25(水)11:00～13:00	ワークショップ「笑顔になれるお菓子作り」②講師; 吉田由美氏
第 11 回	11/8(水) 11:00～12:00	講演「夢の築き方」① 講師; 高木亨氏
第 12 回	11/15(水) 11:00～12:00	講演「夢の築き方」② 講師; 高木亨氏
	12:00～13:00	講演「工藤さんと木の話」④ (生まれたての冒険者へ) 講師; 工藤博氏
第 13 回	11/22(水) 11:00～12:00	講演「夢の築き方」③ 講師; 高木亨氏
第 14 回	11/29(水) 12:00～13:00	ワークショップ「打楽器でコミュニケーション」 講師; D-PROJECT(代表:斎藤寛氏)

# キャリアプランニングセミナー

第1回 全体説明会・基調講演・今年度の講師陣紹介 5/25(水)



第2回 講演(校外)「工藤さんと木の話」①  
(森に行くと木に触れてみよう) 5/31(水)



第3回 ワークショップ「コミュニケーション」6/7(水)



第5回 ワークショップ「心のヨガ」6/21(水)



第6回 ワークショップ「笑顔になれるお菓子作り」7/5(水)



第8回 ワークショップ「手作りスプーンでカレーを食べる」10/11(水)



第14回 ワークショップ「打楽器でコミュニケーション」11/29(水)



## (2) 野外環境コミュニティー体験講座、実施状況 【★交流体験型・自然体験型】

### 〔ねらいと概要〕

東日本大震災から7年が経つが、震災への関心は風化しつつあり、被災地では行政支援の遅れ、人口の流出などが目立つ。そうした中で、震災直後の物質的支援とは異なった新たな支援が求められている。以下の活動では、被災地の人々と高校生が、交流や諸活動を通して、共に地域の諸課題について考える。特に宮城県は、震災の影響が背景にあるとみられる不登校生が多く、本校の生徒も例外ではない。そうした生徒達の地元でもある地域への関心、社会参画意識を育てるのがこの活動のねらいである。

講師を依頼する黄本富士子氏には、本校のオリジナルなプログラムの作成やコーディネートを委託した。

### 【連携した外部機関、外部人材】

・「NPO 法人スマイルシード」理事長 黄本富士子氏

※「NPO 法人スマイルシード」について

景観再生や地域支援ボランティアなど、宮城県の復興支援活動を行う。

特に力を入れているのが、県内外の若者層を対象にした人材育成事業。

地域の人との様々な野外体験学習を通してバリエーション豊かなワークショップを行い、次世代を担う若者の社会貢献への意識向上を促す。

### 【実施状況】

5/10(水) 活動キックオフ全体ミーティング(校内)

5/22(月) 被災地石巻市内視察 (石巻大川小、女川町、石巻明神社など)

5/24(水) 事後学習 (校内)

6/5(月) サツマイモの種付け(石巻・網地島)

6/7(水) 事後学習 (校内)

7/10(月) 石巻渡波地区「美化・清掃」活動 (石巻明神社など)

7/12(水) 事後学習 (校内)

8/2(水) 前半の振り返り (校内)

8/9(水) 成果物編集会議 (校内)

8/21(月) 畑の草取り (石巻・網地島)

8/23(水) 事後学習 (校内)

10/9(月) サツマイモの収穫 (石巻・網地島)

10/11(水) 事後学習 (校内)

10/30(月) 多世代交流ワーク (石巻復興住宅でおかずかけ料理を作る)

11/1(水) 事後学習 (校内)

12/4(月) お茶っこ交流会 (石巻復興住宅)

12/6(水) 事後学習 (校内)

12/8(金) 1年間の活動の総括 (校内)

## 野外環境コミュニティワークショップ

5/22(月) 被災地石巻市内視察 (石巻大川小、女川町、石巻明神社など)



大川小学校跡、女川町、渡波明神社、日和山神社を訪問。

7/10(月) 石巻渡波地区「美化・清掃」活動 (石巻明神社など)



震災時、避難した 200 人以上の命が救われた石巻渡波明神社で

6/5(月) サツマイモの種付け(石巻・網地島)



10/9(月) サツマイモの収穫 (石巻・網地島)



10/30(月) 多世代交流ワーク (石巻復興住宅でおくずかけ料理を作る)



### (3) ボランティア体験活動、実施状況 【★ボランティア体験活動型】

#### ① 炊き出しボランティア

〔ねらいと概要〕

仙台には、約 120 名ほどの路上生活者がいると推定されている。仙台の NPO とカトリック教会の組織は、毎月、第 2、第 3 土曜日に炊き出しと古着提供を行うことで路上生活者と触れ合い、社会復帰を促す支援を行ってきた。この活動に本校通信制課程の生徒を参加させてきたが、自分の内側にのみこもりがちだった生徒の心を外へ向けさせ、社会に奉仕する意味を感じ取らせることができた。また、社会的弱者のために献身している大人や学生と接することは生徒の視野を広げ、社会に一步踏み出すきっかけをもたらしてくれるものと思われる。

生徒は、事前学習の後、当日、おにぎり、豚汁作り、古着の仕分け、配膳などの手伝いをする。今年度は、2 名の生徒がこのボランティアに参加した。また、このボランティアはカリキュラムに設定されていて、単位制になっている。

#### 【連携した外部機関、外部人材】

NPO 法人「萌友」、「日本カトリック正義と平和協議会」

#### 【実施状況】

- 8/19(土) カトリック北仙台教会 (1 名参加)
- 11/11(土) カトリック元寺小路教会～五橋公園 (2 名参加)
- 12/9(土) カトリック元寺小路教会～五橋公園 (1 名参加)

#### 【炊き出しボランティア】 主な活動内容、時程の例

9:00	カトリック元寺小路教会集合、豚汁、おにぎり等の調理、古着の仕分け
11:00	五橋公園に移動、炊き出しの準備
12:00	炊き出し
13:00	片づけ、昼食
14:00	教会に戻り、片付け、振り返り
15:00	解散



カトリック元寺小路教会でおにぎり作り



カトリック北仙台教会 信徒会館 調理場



仙台五橋公園で古着の配布

## ② 施設訪問

### 〔ねらいと概要〕

学校・家庭以外の場所で他者と関わりを持つ機会を与え、社会の一員として生活していることに気付かせる。また、活動を通して奉仕する姿勢を身に付け、コミュニケーション能力を向上させる。自発的な行動がない場合でも「ここにいるだけでいい存在」と実感させ、その後入居者と関わっていく中で自らの役割を意識できるようにするのが目的。希望者を募集して実施する。

### 【連携した外部機関、外部人材】

社会福祉法人 カトリック児童福祉会 特別養護老人ホーム 暁星園

### 【実施状況】

- ・活動内容：ユニットに入り、2人1組で入居者の方と交流、傾聴を行った。
- ・その他、クリスマスに手作りのカードを送った。

\*訪問先の施設の方がわかるように、活動中は揃いのエプロンを用意した。

#### ・訪問日

- ・6/7（水） 3名参加
- ・6/21（水） 3名参加
- ・7/12（水） 4名参加
- ・9/27（水） 3名参加
- ・11/29(水) 2名参加

- ・クリスマスカード作り（11月初旬から中旬）



### ③ With Kids ボランティア

#### 〔ねらいと概要〕

地域の児童館(寺岡児童センター)や、併設小の時間外預かりの子供たちと触れ合うボランティア。希望者を募って行く。子供達のお世話をし、その純真な心に触れることによって、生徒の心を和ませ、心を外に向けさせるきっかけを作る。また年下の子供たちと接することは、生徒の精神的自立に向かわせる効果があると思われる。

内容としては、男女の別なく大人数で遊べる玩具である「KAPLA」(板状の積み木)を持参して児童たちと遊ぶ。なお、ボランティアに際し参加者には、“児童の面倒を見るために気を付けること”を、オリエンテーションを開催して確認。また、その際事前に KAPLA の使い方を学び、児童の遊びを導いてあげられるような準備を行う。

#### 【連携した外部機関、外部人材】

- ・寺岡児童センター
- ・仙台白百合学園小学校 (時間外預かり SKIP)

#### 【実施状況】

7/31(月)	10:00～12:00	寺岡児童センター (3名参加)
8/1(火)	10:00～12:00	寺岡児童センター (1名参加)
8/2(水)	10:00～12:00	寺岡児童センター (2名参加)
8/3(木)	10:00～12:00	寺岡児童センター (2名参加)
8/4(金)	10:00～12:00	寺岡児童センター (2名参加)
7/4(火)	14:00～15:00	仙台白百合学園小学校(時間外預かり SKIP) (11名参加)
7/20(木)	13:30～14:30	仙台白百合学園小学校(時間外預かり SKIP) (3名参加)
7/21(金)	13:30～14:30	仙台白百合学園小学校(時間外預かり SKIP) (5名参加)
7/25(火)	13:30～14:30	仙台白百合学園小学校(時間外預かり SKIP) (1名参加)
7/27(木)	13:30～14:30	仙台白百合学園小学校(時間外預かり SKIP) (2名参加)
7/28(金)	13:30～14:30	仙台白百合学園小学校(時間外預かり SKIP) (1名参加)



寺岡児童センター



寺岡児童センター



併設小学校 時間外預かり

#### (4) 高大連携を通じた「学び直し」と「発展的学習」 【★大学生との座談会型】

##### 〔ねらいと概要〕

併設大学である仙台白百合女子大学と連携し、学生ボランティアを募集、生徒の「学び直し」と「発展的学習」を支援してもらう。このプログラムを通し年齢の近い大学生と定期的に接することで、社会性を伸張し自己肯定感も合わせて涵養したい。今年度は、仙台白百合女子大学の教職を目指している学生が実習を兼ねて来校し、本校生徒との懇談を行った。また、他の大学に進学した本校の卒業生も来校、在学中の学校生活などを振り返り、生徒を励ましてくれた。

##### 【連携した外部機関、外部人材】

- ・仙台白百合女子大学 学生
- ・本校 通信制課程 卒業生

##### 【実施状況】

- 11/11 (土) 大学生 2 名来校
- 12/2 (土) 大学生 3 名来校
- 1/10 (水) 大学生 2 名来校
- 1/16 (火) 大学生 2 名来校



#### (5) EOP 体験講座 【★座学的体験活動型】

##### 〔ねらいと概要〕

本校は、水曜日と土日にスクーリングを行っているが、自由登校日の〔火・木・金〕を利用して、EOP〔エンカレッジ・オリジナル・プログラム〕を設定し、様々な学力アップ講座、体験講座を開講している。生徒は興味・関心に応じて自主的に講座を選択、視野を広げ、学習意欲を高めることができた。ほとんどの講座は、本校の教員が講師を担当したが、外部の講師を依頼した講座もあった。本研究で実践し検証する学習プログラムは、外部講師に依頼した「パッチワーク講座」である。

##### 【連携した外部機関、外部人材】

- ・「パッチワーク講座」 --- 荒川潤子氏

##### 【実施状況】

- ・「パッチワーク講座」 〈隔週金曜日〉



「パッチワーク講座」

## (6) 修養会 【★座学的体験活動型】

### 〔ねらいと概要〕

修養会とは、聖書の言葉に心を重ね、自分の生き方を振り返る時間である。本研究で示した指標のうち「弱者への視点と奉仕の精神」に基づいて計画され、「2つの講話」と「振り返り」から構成される。本年度の講師は、本校の設立母体であるシャルトル聖パウロ修道女会の(東京在の)マ・スール(シスター)である。

### 【連携した外部機関、外部人材】

・シャルトル聖パウロ修道女会 マ・スール末吉美津子 氏

### 【実施状況】

- ・実施日時 ; 平成 29 年 11 月 10 日(金) 10:30 ~15:00
- ・実施場所 ; 仙台白百合学園高等学校 多目的室
- ・講師 ; マ・スール末吉美津子氏 (シャルトル聖パウロ修道女会)
- ・実施内容 ; テーマ「タリタ、クム(少女よ、起きなさい)」
- ・時 程 ; 10:30~11:30 第一講話 ( カメルーンでの支援活動①)  
(昼食休憩)  
12:30~13:30 第二講話 (カメルーンでの支援活動②)  
13:40~14:30 みことばの祭儀  
14:30~15:00 振り返り



## (7) クリスマス会 【★座学的体験活動型】

### 〔ねらいと概要〕

本研究で示した指標のうち「弱者への視点と奉仕の精神」に基づいて計画され、キャンドルサービス、講話等で構成される。講話の講師は、本校の宗教科担当のマ・スールの吉田めぐみ氏であり、今回は外部機関との連携はなかった。

### 【実施状況】

- ・実施日時 ; 平成 29 年 12 月 16 日(土) 13:30 ~15:30
- ・実施場所 ; 仙台白百合学園高等学校 ロザリオの MARIA 聖堂
- ・実施内容 ; 時 程 13:30 キャンドルサービス  
講話 マ・スール 吉田めぐみ 氏  
14:30 閉会



## (8) 保護者向けワークショップ 【保護者対象コーチング型】

### 〔ねらいと概要〕

保護者対象の行事として、保護者会時に下記のワークショップを行った。引きこもりがちで家庭で過ごすことが多い生徒にとって、家庭での保護者の対応の仕方による影響は大きく、保護者研修は、生徒の心の安定をもたらすためにも有用なことである。今年度のセミナーの講師は、花輪敏男氏(F R教育臨床研究所 所長)に依頼した。

### 【連携した外部機関、外部人材】

講師―― F R教育臨床研究所 所長 花輪敏男 氏

### 【実施状況】

実施日 平成 29 年 12 月 9 日(土) 10:20～12:00  
場 所 聖堂大会議室  
内 容 ・不登校や発達障害に関すること  
・保護者の心の持ち方や子供との接し方など



### 保護者の感想

- ・子供の気持ちを分かり、本人に決めさせることが大切と聞き、気を付けていきたいと教わりました。
- ・親子共々、将来のことを考えた時に不安になってしまうことがありますが、「親が思った通りに子供は育つ」という言葉を聞いて、娘の可能性を信じて気持ちを受け止めてあげようと思いました。
- ・発達障害にもいろいろなものがあり、それぞれに合った関わり方が勉強できてとても良かったです。認めることや相手の気持ちをキャッチすることなど、発達障害の人だけではなく、普段の人付き合いにも通じるものがあると思いました。少しずつ実践していけたらと思いました。
- ・花輪先生のお話はとても興味深かったです。自分を振り返ってみても、無意識ではあったけれど、この対応で間違いなかった!!と思えることも多数あり、安心しました。
- ・息子が発達障害なのでとても参考になりました。良いお話が聞けて良かった、で終わらないよう、家庭で実践していきたいと思います。花輪先生のように、長年研究に携わり、10年前からやっと発達障害の子に光が当たるようになったことは、力を注いでくださった大勢の方のお陰です。まだまだ支援の必要な方が沢山いらっしゃいます。障害のある方にも、住みやすい世の中になることを願っています。
- ・花輪先生のお話は大変勉強になり、心に突き刺さりました。「自分の子を信じて」と言われた時、私の心を読まれたような気がして、涙がボロボロ流れ出ました。すごく素敵な先生の講演会を開いて頂き、ありがとうございました。
- ・先生の穏やかでユーモアのあるお話し、子供への接し方の具体例を伺い、肩の力が抜けて前向きな気持ちになりました。できれば、また講話を伺いたいし、講話を伺った後は、保護者同士でディスカッションをしたり、先生に質問する時間をとったりして、講話内容の理解を深めてみたいと思いました。
- ・ちょうど進路についての話し合いがうまくいかず悩んでいたのも、とても参考になりました。
- ・標題の「子供の自立を育む関わり方」のとおり、どうすれば親として子供を支援していけるのか、具体例が大変わかりやすく、前向きなサジェスションにあふれていて、これからの子どもとの接し方に良いアドバイスをしていただき参考になりました。
- ・「甘えさせてくれたけど、甘やかしはなかった」。肝に銘じていきたいと思います。
- ・とてもおもしろく聞かせていただきました。子供たちが聞いてもいいなあと思いました。
- ・講話会后、同じような悩みを共有する保護者の方とお話し出でき、大変有難く感じました。また参加させていただきたいです。
- ・著名な講師のご講話をいただき、大変貴重な機会となりました。ありがとうございました。
- ・発達障害が、意外と身近な存在だということが分かりました。障害を理解していればコミュニケーションも上手にとれるということを知ることがとても大切だと感じました。

### ③ 「指標」に基づいた、探究活動の設計と実施状況

#### 《探究活動の目的》

この調査研究で設計する学習プログラムの実践の過程で重視したいのが「探究活動」である。上記の外部機関と連携した活動で行う探究活動以外にも、下記の「総合的な学習の時間」や学校設定科目「グローバル・スタディーズ」などで探究活動を行う。

探究活動とは、ある課題を設定し、背景や原因を探りながら課題に対する結論を導き出す作業である。この過程で、受け身ではない能動的な姿勢や、問題解決力、チャレンジ精神を育てることができる。今、アクティブ・ラーニングが注目されているのも同じ理由からである。

さらに、この探究活動時に「IT 機器」を活用すると、生徒の社会参加への意欲をより高めることができる。IT 機器を活用することは、現代の社会に関わるうえで必要なスキルを身につけるとことにつながり、生徒のキャリアへの関心や進路達成への意欲を高めることができるからである。

#### 《主な探究活動》

- ・ 総合的な学習の時間  
    (主な内容) 「総合 B」「総合 C」「総合 D」
- ・ 学校設定科目「グローバル・スタディーズ」

#### 1 総合的な学習の時間

- 「総合 B」 1 「地球家族」という写真を使い、地球の様々な暮らしや、本当の豊かさを学ぶ。  
          2 「地球の食卓」という写真を使い、世界の食の違いや、食の豊かさについて学ぶ。
- 「総合 C」 1 “もったいない”をテーマに、【KJ 法】で自分と地球の関係を知る  
          2 “平和”をテーマに【言葉の貯金箱】という手法で、自分と平和の関係を考える
- 「総合 D」 1 「志望理由書」や「小論文」を通して自分の将来を表現する。  
          2 「面接」や「プレゼンテーション」を通して、自分の未来を考える。



## 2 「学校設定科目・グローバル・スタディーズ」のスクーリング時

本校は、新しい時代に対応した教育プログラムとして、28年度のカリキュラムより、学校設定科目「グローバルスタディーズ」を開設した。この科目のねらいは、自分と地球規模の問題との関係に気づき、社会に対する責任意識を高め、地球の一員として、問題解決に向かう姿勢と行動力を身につけることにある。この科目で重視するのが「探究活動」である。後期は、各自、テーマを設定し、探究に取り組み、レポート作成、発表(パワーポイントやポスターセッション)を行った。

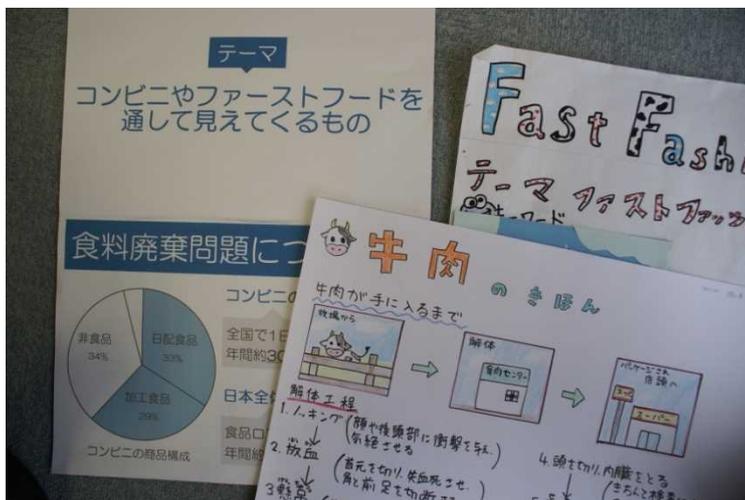
### 「グローバルスタディーズ」内容予定(シラバスより)

#### 「グローバル・スタディーズ」のねらい

自分と地球規模の問題との関係に気づき、地球の一員として、問題解決に向かう姿勢と行動力を身につける。

#### 学習内容

- 1 “身近なもの” から世界を考える ①(チョコレート、ケイタイなど)
- 2 “身近なもの” から世界を考える ②(バナナ、コンビニ など)
- 3 探究活動 「“私”の一步が社会を変える!？」
- 4 探究活動発表会



## ④ 学習プログラムや探究活動のために購入した「設備備品」の使用状況

平成 29 年度は、タブレット端末 2 台、パソコン 1 台を購入し、昨年購入した機器に加えて、下記に記したように学校設定科目「グローバルスタディーズ」、ホームルーム、自主学習などで使用し、生徒の探究活動に大いに役立てることができた。平成 28 年度に購入した移動式テレビモニター、DVD/BD プレーヤーも、各スクーリングや諸活動で頻繁に使用し、有効に活用している。

### ■タブレット端末(2 台)、パソコン(1 台)

#### ① 学校設定科目「グローバルスタディーズ」での探究活動

この活動では、前述したように、「身近なモノと地球とのつながり」というテーマで探究活動を行った。生徒は、チョコレート(カカオ)、ハンバーガー(ファーストフード)、コンビニ、ペットボトル(の水)、コーヒー、カップ麺、割り箸、牛肉、豚肉、100 円ショップ、エビ、マグロ、大豆、原発、ダイヤモンドなどの中から 1 つ選び、その「身近なモノ」が世界とどのようにつながっているか、タブレットやパソコン、書籍等で探究し、〔1 テーマ設定の理由 2 問題の構造 [図解] 3 問題解決に向けて 4 問題解決にむけてのアクション・プラン〕の構成でポスターにまとめ、ポスターセッションの形式で発表した。

#### ② 進路に関するホームルームでの検索

学年毎のホームルーム時の「進路」の時間に、進路志望校の検索のために使用した。

#### ③ 自主学習時での使用

「社会と情報」「情報応用Ⅰ」「情報応用Ⅱ」のスクーリング時に、タブレット、パソコン等の情報端末の使い方を学習し、他のスクーリングや総合的な学習の時間の調べ学習、総合的な学習室でのレポート作成、視聴教材を使っでのレポート作りなどに頻繁に使用した。購入前は、学習室にパソコンが 1 台しかなかったため、生徒の学習活動の幅は格段に広がった。



### (3) 外部機関と連携した教師の教育力向上のための会議や研修会の設定

#### ① 校内・教員研修会

##### I 平成 29 年度 第 1 回 教員研修会

日 時 平成 29 年 6 月 9 日(金) 10:00～12:00  
場 所 仙台白百合学園中学・高等学校 GV センター  
講 師 植木田 潤 氏 ( 宮城教育大学特別支援教育講座・准教授 )  
テ ー マ 「学ぶことが難しい児童生徒の理解と支援」  
内 容

- 1 基調講話 植木田潤 氏
- ・育ちの全体像を見渡す
  - ・どこで学びに躓いているのか
  - ・発達障害の子どもが抱える「生きづらさ」
  - ・“共に学ぶ場”で予想される困難
  - ・レジリエンスへの注目 など

- 2 EC 生徒の事例検討
- 3 質疑応答



##### II 平成 29 年度 第 2 回 教員研修会

日 時 平成 29 年 9 月 22 日(金) 10:00～12:00  
場 所 仙台白百合学園中学・高等学校 GV センター  
講 師 花輪 敏男 氏 ( FR 教育臨床研究所 所長 )  
テ ー マ 「発達障害と不登校」  
内 容

- 1 本校の通信制課程の概要紹介
- 2 担任より、各クラスの様子を紹介
- 3 講演

- ・自閉症スペクトラムの不登校
- ・問題解決のために
- ・家庭・学校・専門機関の関係
- ・対応の基本姿勢
- ・ガソリンを入れる
- ・いくつかの技術 など

- 4 質疑応答



## ② 校外・研修会参加

本校は、平成 27 年 12 月に「全国高等学校通信教育研究会」に入会、28 年 6 月の総会で正式に承認された。そこでこの研究会が主催する諸研修に積極的に参加し、生徒の支援体制や外部と連携した運営組織などを学び、本調査研究に活かしていく。また、全国や地区の通信制教育研究会には、生徒対象の研修会や発表会もあり、他校の生徒と接することによる自己研鑽のためにも、参加の機会を与えたい。

### 《研修会報告》

#### (1) 高等学校通信制教育 70 周年記念

##### 第 69 回全国高等学校通信制教育研究会総会並びに研究協議会(島根大会)

主 催 全国高等学校通信制教育研究会  
中国地区高等学校通信制教育研究会  
期 日 平成 29 年 6 月 14 日(水)～16 日(金)  
会 場 島根県民会館

#### 《主な内容》

##### 1 高等学校通信制教育 70 周年記念式典および開会式

##### 2 総 会

##### 3 文部科学省 講演

演 題 「高等学校教育をめぐる最近の動向」  
講 師 菅谷 匠

文部科学省初等中等教育局初等中等教育企画課  
教育制度改革室高校教育改革 PT 専門官

- 〈内容〉 1 高等学校通信教育の質の確保・向上について  
2 高大接続改革について  
3 学習指導要領の改訂について

##### 4 記念講演

演 題 「私の分岐点」  
講 師 アルピニスト 野口 健

##### 5 研究協議会 [第 1 分科会；学校運営]

- (1) 「特別な教育的支援を必要とする生徒の対応について  
～通信制高校における実施状況と今後の支援の在り方～」

神奈川県立横浜修悠館高等学校	副校長 久弥田啓嗣
神奈川県立大宮中央高等学校	教 頭 吉原 純忠
群馬県立太田フレックス高等学校	教 頭 飯島 幸
茨城県立水戸南高等学校	教 頭 栗田 武志

- (2) 「長野西高校通信制の取り組みと課題 ～一人ひとりに寄り添う教育を目指して～」  
長野県長野西高等学校 教 頭 小林 弘己



### 〈主な質疑や協議事項〉

- ・H22年頃から新入学者が増加傾向にあるが、その背景として、小学校のとき「総合学習」が導入された世代が中学生になり多様な進路選択を考え始めたことが関係しているのではないかと。
- ・生活指導面で、「そのままでもいいよ」から「そのままでもいいの?」に切り替え、成長した生徒もいる。
- ・「レポート添削研修会」や「スクーリング研究授業」を行っている。
- ・レポートは、1回目は「赤」、2回目は「青」で添削し、ヒントのみを与え、満点をとるまで続けている。
- ・20代から60代の入学者もいて、ネガティブな思いを抱いている生徒にとって励みになっている。

### 〈指導助言から〉

- ・「レポート添削」「スクーリング」は通信制教育の原点。その質を向上させようという試みは、教員の意識を高めることにつながる。
- ・「チーム学校」として、地域の諸機関と連携して教育力を高めることは重要。
- ・発達障害等の生徒に対する理解に基づいた対応が必要。例えば、アクティブラーニング的な学習方法の一部は、そうした生徒に負担になることもあり、取り組みに対する多様な工夫が必要。

#### 全通研「通信制教育宣言」

高等学校通信制は、多様な教育方法を実践する中で、生徒の成長の手応えを十分に感じながら、それを励みとして教育活動を展開できる素晴らしい教育の場であります。高等学校における通信制教育が70周年を迎えたことを記念し、全通研は通信制教育に携わるすべての人々とともに、通信制教育のさらなる充実と発展を目指して取り組んでいくことをここに宣言します。

- 1 私たち全通研は、文部科学省「高等学校通信制教育の質の確保・向上のためのガイドライン」に基づき、「生徒に不誠実な教育は教育ではない」という立場から、学ぶ人の心身の成長に資する正しい高等学校通信制教育を実現してまいります。
- 2 私たち全通研は、学びは希望そのものであるという理念を改めて確認し、先達が灯し続けてきたその希望の光を、学びを求める全ての人々に届けられるよう高等学校通信制教育の充実にまい進してまいります。
- 3 私たち全通研は、通信制教育70年間の社会情勢の変化と情報通信技術の進歩を積極的に受け止め、一層の教育研究を重ね、常に時代に即応した新しい教育の実践に挑戦してまいります。

### 【研修を終えて】

今回の全通研総会・研究協議会は、まさに文科省による通信制高校に対する集中改革プログラムの真ただ中に行われた。一部の株式会社立広域通信制高校の不正行為とマスコミ報道は、通信制高校全体に対するイメージダウンにつながったが、この研修会に参加して、事例発表や質疑応答の熱気から、ほとんどの通信制高校は真摯に教育に取り組んでいることを実感することができた。文科省の調査、指導が進行中だが、「生徒に不誠実な教育は教育ではない」という今回の通信制教育宣言の言葉通り、今回の問題が、通信制高校の意識を引き締め教育内容がより充実する良いきっかけになることを願っている。

通信制教育は、多様な事情を抱えた生徒を、自ら学ぶ学習者として自立させることができる柔軟な教育システムで、創意工夫をダイレクトに生徒に反映させることができる制度であることを今回の研修会で参加者一同確認することができた。この研修会は、参加者にとって、教育の原点とも言える通信制教育に様々な困難を乗り越えて取り組もうとする使命感を高めたものとなったと確信している。

## (2) 東北南部三県高等学校通信制生徒研修会

後 援： 東北・北海道地区高等学校通信制教育研究会

日 時： 平成29年7月1日（土）～2日（日）

会 場： 宮城県立美田園高等学校

目 的： 東北南部三県（宮城・福島・山形）の通信制高校に通う生徒たちが集い、交流を通して相互理解を深め、高校生活をより充実させていくことを目的としている。

日 程： 7月1日（土）研修Ⅰ [交流ゲーム]  
研修Ⅱ [陶芸体験]  
研修Ⅲ [討論会]  
7月2日（日）討論会の発表会

参加校： 宮城県立美田園高等学校、山形県立鶴岡南高等学校、山形県立霞城学園高等学校  
福島県立郡山萌世高等学校、仙台白百合学園高等学校



### (3) 東北・北海道地区高等学校通信制生徒生活体験発表大会

主催： 東北・北海道地区高等学校通信制教育研究会

日時： 平成29年10月21日（土）～22日（日）

会場： 八戸市総合福祉会館

日程： 10月21日（土）集合→全体会（抽選）→生徒交流会→マイク位置等確認  
10月22日（日）開会式→発表→表彰式・閉会式→集合写真撮影

#### 《各校の発表者・演題》

- ◆北海道有朋高等学校「私らしく生きる」、「心のありか」
- ◆星槎国際高等学校・本部校「私の今と過去」
- ◆星槎国際高等学校・帯広学習センター「星槎に来てから変わった自分」
- ◆青森県立尾上総合高等学校「今までの私、これからの私」
- ◆青森県立八戸中央高等学校「私の一年四ヶ月」
- ◆青森県立北斗高等学校「自分と向き合って」
- ◆岩手県立杜陵高等学校・本校「あたりまえの大変さ」
- ◆岩手県立杜陵高等学校・宮古分室「私の進道」
- ◆岩手県立杜陵高等学校・奥州校「弱みを武器に変える」
- ◆宮城県立美田園高等学校「明るい回り道」、「支えられて築く未来」
- ◆仙台白百合学園高等学校「私を支えてくれた人へ」
- ◆秋田県立秋田明徳館高等学校「前に進むための勇気」
- ◆山形県立鶴岡南高等学校「一步踏み出そう！違う未来が待っている」
- ◆山形県立霞城学園高等学校「地球のステージが教えてくれたこと」、「見えてきた自分」
- ◆福島県立郡山萌世高等学校「高校生活が自分を変えた事」

#### 【研修を終えて】

地区通研に加盟している北海道および東北6県の通信制高校が集まり、総勢18名の代表者が発表を行った。宮城県からは本校1名と美田園高校2名の代表を選出した。大会前日には抽選会の他、参加生徒たちが交流できる場として、八戸にまつわるクイズ大会が行われた。これには引率教員も含めて全員が和気あいあいと和み、他校の生徒どうしが交流するととてもよい機会となった。大会当日の生徒発表に関しては持ち時間7分間が認められ、それぞれが思いを込めて堂々と壇上で発表を行った。通信制に通うことで生活のリズムが変わり、周囲への意識が芽生え、感謝の気持ちや未来への希望がわくなど、本来の自分をいかに取り戻したかという内容に心が打たれた。通信制に関わる関わらないに限らず、一度は彼ら彼女らの主張に耳を傾けることが必要だと強く感じた。大会の様子は録画されてDVDになり、本校の教職員も視聴し、今後の教育活動に役立っている。



#### (4) 全通研研修会

- 主 催： 全通研 e ラーニング研究委員会・全通研事務局
- 日 時： 平成 29 年 12 月 15 日（金）午後 1 時～4 時 30 分
- 会 場： 国立オリンピック記念青少年総合センター

#### 《研修会主題》

「NHK 高校講座番組の効果的な活用に向けた実践事例研修」

#### 《主な内容》

##### ◆開会

- ・主催者挨拶
- ・指導助言者紹介
- ・発表担当者紹介
  - ①栃木県立学悠館高等学校 教諭 松本一則先生
  - ②神奈川県立修悠館高等学校 教諭 青木隆道先生
  - ③NHK エデュケーショナル 森美樹氏

##### ◆実践事例研修

- ・栃木県立学悠館高等学校の取り組み「面接指導の理解を深める」
- ・神奈川県立修悠館高等学校の取り組み「出席困難な生徒へも学習の機会を提供」
- ・NHK エデュケーショナル「映像メディアと教育」

##### ◆質疑応答・研究協議

##### ◆指導助言と講演

- ・早稲田大学人間科学学術院 准教授 森田祐介氏

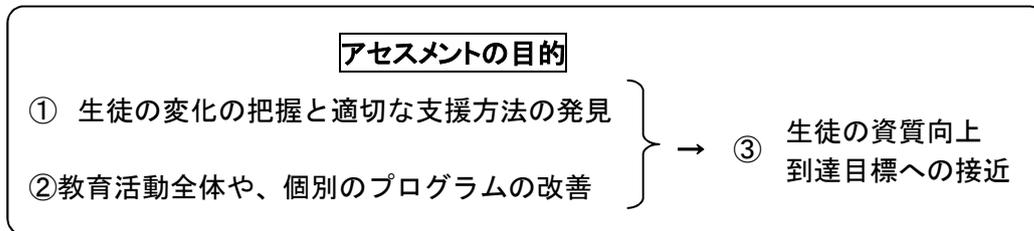
#### 【研修を終えて】

通信制高校に通う生徒たちに対していかに学習意欲を引き出すかについて、日々各学校で試行錯誤がなされている。今回の研修会では 2 校の事例および制作者側の熱意などを伺うことができ、たくさんの収穫が得られた。学悠館ではインターネット環境を整えた上で積極的に NHK 高校講座の視聴を取り入れ、写真だけでは分かりにくい実験や発音の仕方などをスクーリングとレポートの中に強制的に取り入れることを定着させていた。修悠館においてもスクーリングの中で高校講座の一部を視聴させ、レポートと番組の進行を合わせて理解を助けることにつなげていた。NHK エデュケーショナルは制作者側の視点から今まで教育番組を作り続けているノウハウと映像技術を駆使し、簡単そうに見えるものほど時間をかけ、分かりやすい映像作りに徹していた。今後も全通研の研修会には積極的に参加し、学び得たことを本校の教員にも伝え、皆で共有したいと強く感じた。

### 3. 上記の一連の取り組みに対するアセスメントの実施

#### (1) 生徒の資質向上のためのアセスメント方法の開発

##### ①アセスメントの手順



5月

「数値的自己評価」の実施

10月

中間アセスメント検討会議（外部助言者を招いての中間報告と助言）

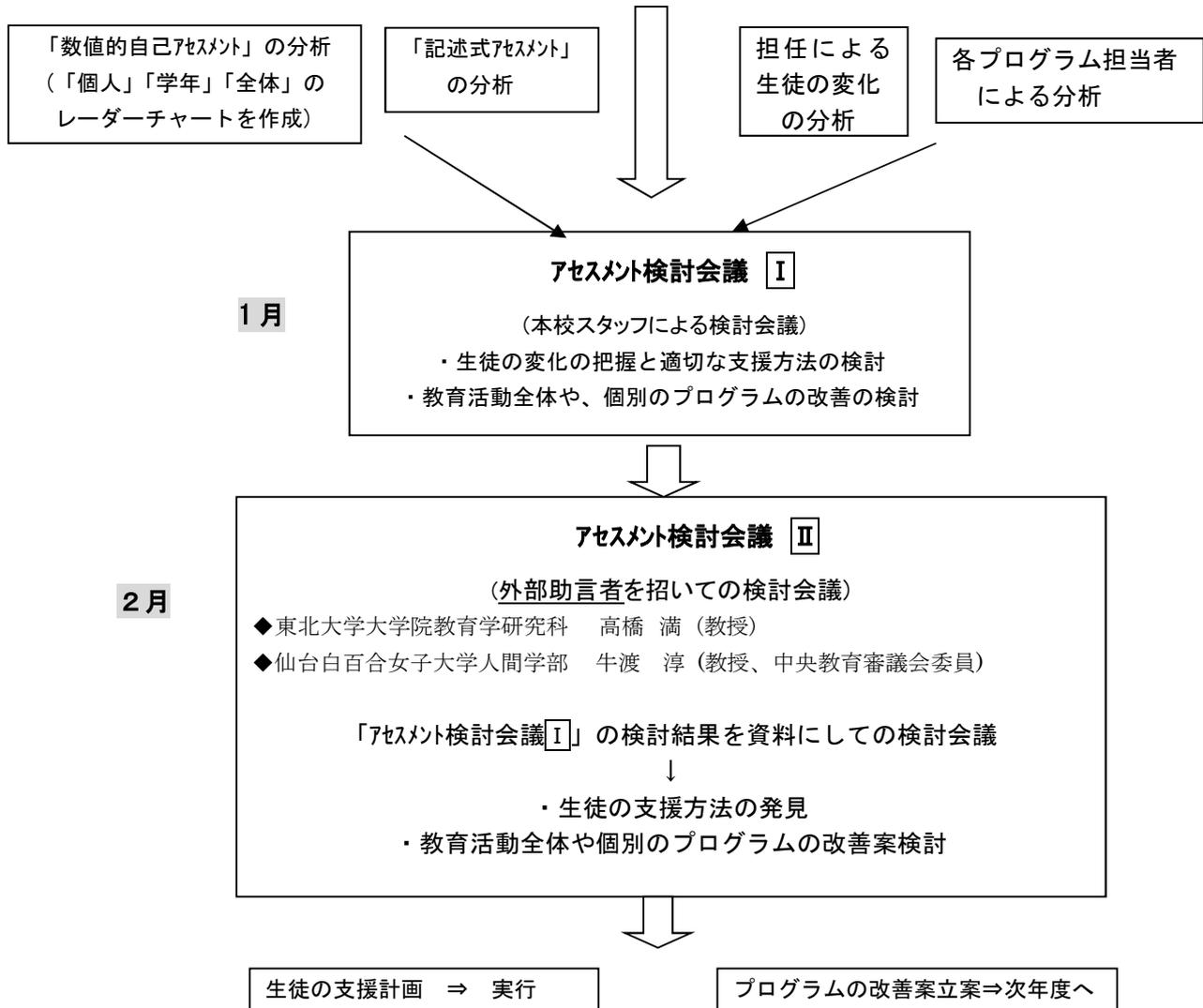
11月

「数値的自己評価」と「記述式自己評価」の実施

12月

「面接」； 生徒と教師による協同アセスメント

【「外部連携プログラム」終了ごとにアンケート実施】



## ②アセスメントの方法

### 5月 生徒による数値的自己評価と記述式自己評価

※ 5月と11月に記入、数値や記述式の内容を比較し、変化を分析する。

#### 1 生徒による数値的自己評価

◆今の自分をチェックするために、それぞれの指標を5段階で評価して下さい。 [5 : とてもそう思う 4 : まあまあそう思う 3 : どちらとも言えない 2 : あまりそう思わない 1 : そう思わない]		評価		
		5月	12月	
自己理解力	自分の個性に気づき、自分の良さを受け入れることができる。	①自分の性格・関心・能力を理解している。		
		②自分の良さを受け入れることができる。		
		③今の自分を築いてくれたこれまでの出会いに感謝することができる。		
コミュニケーション力	自分の考えを伝えることができる。他者と協力して物事に取り組むことができる。	④自分の考えを論理的に他者に伝えることができる。		
		⑤話し合いや発表の場で、自分の意見を述べるができる。		
		⑥他者と協力して、ひとつの仕事に取り組むことができる。		
社会参画意識	社会の一員として自分を社会に活かそうとする志を持つことができる。	⑦社会の出来事に関心を持っている。		
		⑧将来、自分を社会に活かそうとする意欲がある。		
		⑨社会問題を意識して、身近なところから行動することが出来る。		
奉仕の精神	弱い立場にある人々へ共感し、他者のために奉仕することができる。	⑩隣人の喜びや悲しみに共感することができる。		
		⑪思いやりを持って人に接することができる。		
		⑫奉仕活動やボランティアに積極的に参加することができる。		
確かな学力	将来、自分を社会に活かす確かな学力を付けるために努力している。	⑬苦手な教科の克服のために努力することができる。		
		⑭学力向上のために計画的に学習に取り組むことができる。		
		⑮将来の進学や就職を意識して学習に取り組んでいる。		

#### 2 エンカレッジコースに入学する前と現在を比べると、学校生活を意欲的に送ることができるようになりましたか。次から1つ選んで○をつけて下さい。

- ① 当てはまる
- ② どちらかという当てはまる
- ③ どちらともいえない
- ④ どちらかという当てはまらない
- ⑤ 当てはまらない

その理由を書いて下さい。

#### 3 エンカレッジコースで過し、自分のどんな点が変わりましたか。

11月

1 生徒による数値的自己評価 (5月と同様のシート)

2 生徒による記述式自己評価

※ 下記のシートに記入、記述の内容を分析

1 これまでのエンカレッジコースでの学びについて答えて下さい。(3)~(8)については、自分が参加したもののすべてについて、①~③から選択し○をつけて下さい。	
(1) スクーリング	スクーリングについての感想を書いて下さい。(印象的なスクーリング、改善してほしいこと、など)
(2) EOP	EOPについての感想を書いて下さい。(良かったEOP、新設してほしいEOPなど)
(3) キャリアプログラム・セミナー	① ためになった ② どちらとも言えない ③ あまりためにならなかった ★その理由を書いて下さい。
(4) 野外環境コミュニケーションキャンプ (マイルストーン 関係)	① ためになった ② どちらとも言えない ③ あまりためにならなかった ★その理由を書いて下さい。
(5) 施設訪問(暁星園)	① ためになった ② どちらとも言えない ③ あまりためにならなかった ★その理由を書いて下さい。
(6) with kids ボランティア (寺岡児童センター) (併設小学校時間外預かり)	① ためになった ② どちらとも言えない ③ あまりためにならなかった ★その理由を書いて下さい。
(7) 炊き出しボランティア	① ためになった ② どちらとも言えない ③ あまりためにならなかった ★その理由を書いて下さい。
(8) 大学生との交流	① ためになった ② どちらとも言えない ③ あまりためにならなかった ★その理由を書いて下さい。
(9) その他の活動 活動内容〔 〕	① ためになった ② どちらとも言えない ③ あまりためにならなかった ★その理由を書いて下さい。
◆上の(3)~(8)の中で、自分にとって最もプラスになったものはどれですか。(複数可)	

2 エンカレッジコースで過してからの自分の変化が、前記の諸活動と関係があれば、その旨を書いて下さい。)

3 エンカレッジの学びの中で、自分の生き方や進路に影響を与えたものがあったら書いて下さい。

4 エンカレッジコースの学びについて、要望や改善してほしい点があったら書いて下さい。  
(前記(1)～(8)についても、改善点があったら書いて下さい。)

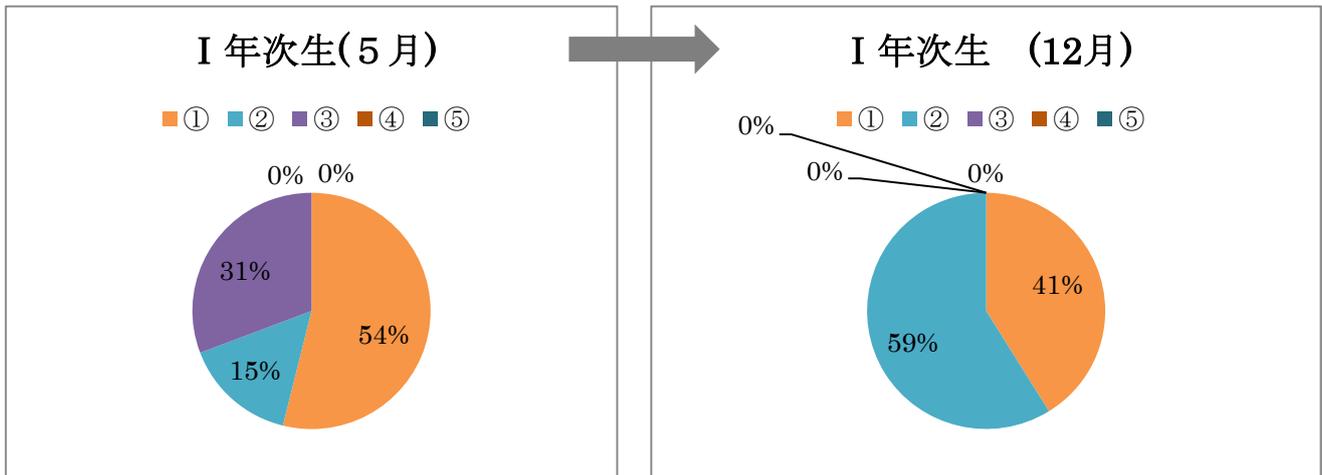
5 自分の学習にたいする姿勢を振り返り、改善しようと思う点は何ですか

6 現在、困っている事、迷っている事、悩んでいることがあったら書いて下さい。

## (2)アセスメントの結果と分析

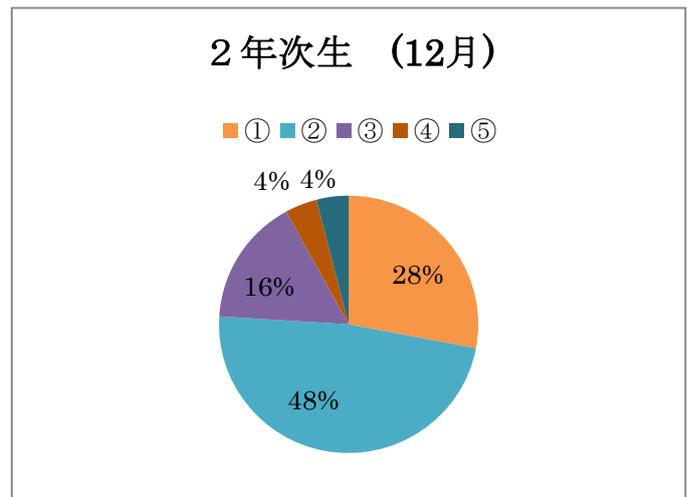
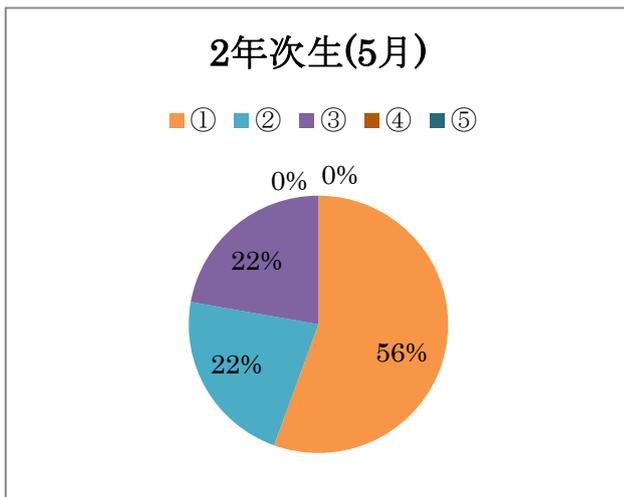
### アセスメントⅠ 「入学前と比べると、学校生活を意欲的に送ることができるようになりましたか？」

- ① あてはまる    ②どちらかと言えば当てはまる    ③ どちらとも言えず  
④どちらかと言えば当てはまらない    ⑤当てはまらない



#### 《自分の変化》

- ・友達ができた。
- ・前向きになった。
- ・ありのままの自分でいられるようになった。
- ・朝起きて、電車・バスで登校するなど、生活のリズムが変わった。
- ・苦手なことを少しずつ勉強しようと思うようになった。
- ・自分の良いところを自覚し始めた。
- ・新しい出会いがあり、刺激をもらった気がする。
- ・前とあまり変わらない。 など

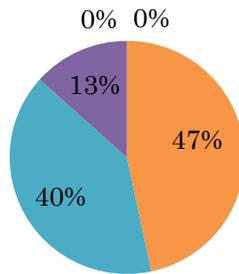


#### 《自分の変化》

- ・外に意識が向かうようになった。
- ・意欲的になり、挑戦してみようという気持ちが生まれた。
- ・前よりもコミュニケーションを図ろうとするようになった。
- ・以前よりも笑うことが多くなった。
- ・自分は自分、他人は他人と区別できるようになった。
- ・自分の考えを他人に伝えられるようになった。
- ・ネガティブが一周回ってポジティブになった。
- ・目標を立てそれに向かう自発性が身についた。 など

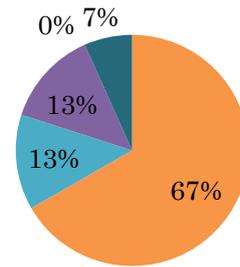
### 3年次生(5月)

① ② ③ ④ ⑤



### 3年次生 (12月)

① ② ③ ④ ⑤



#### 《自分の変化》

- ・物事に向き合うことが面倒くさがらなくなった。
- ・人に挨拶できるようになった。先生と話せるようになった。
- ・自分の性格を理解できるようになった。人と接することが嫌いでなくなった。
- ・自主的に勉強や好きなことに取り組めるようになった。
- ・受け身の姿勢でなくなり、自分から行動できるようになった。
- ・入学前は流されていたが、自分から行動しなきゃ変わらないと思うようになった。
- ・明るくなったが、2年生と時より行動力がなくなった。

など

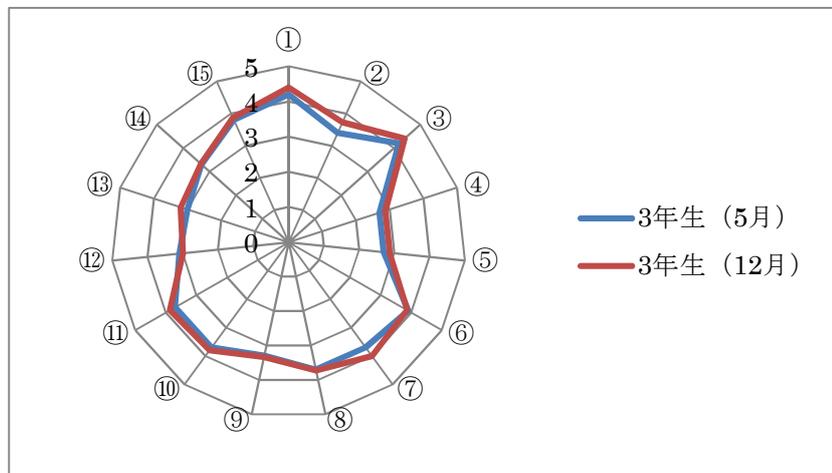
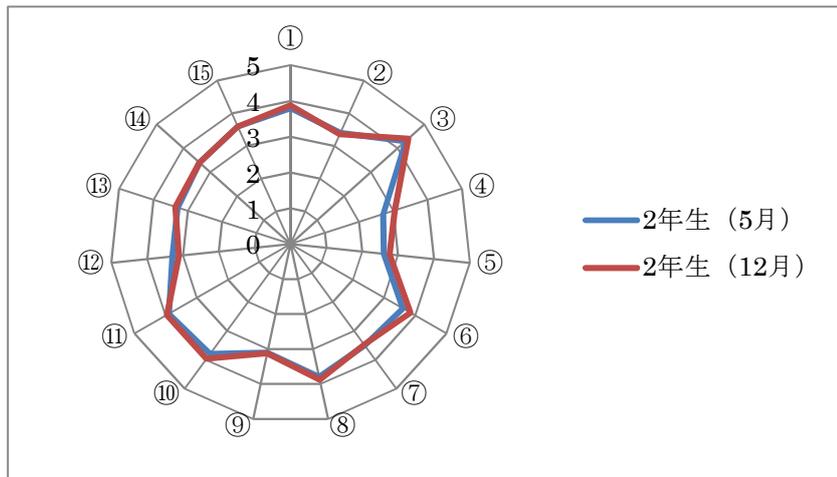
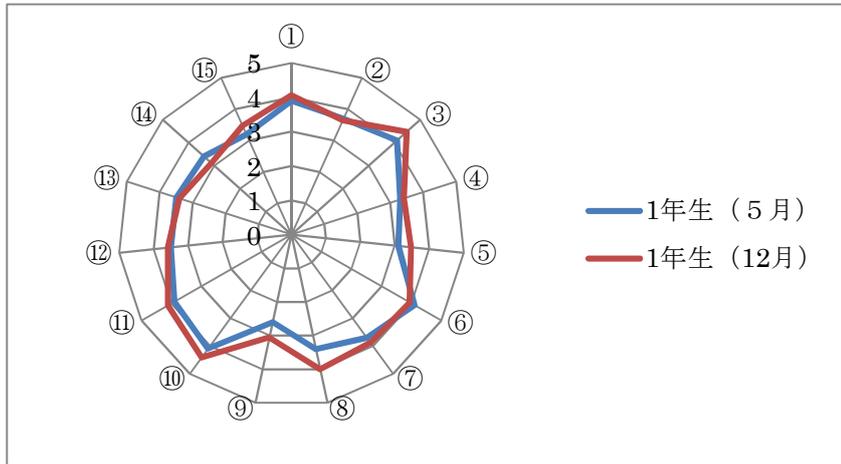
## アセスメントⅡ 「生徒による数値的自己評価」

◆今の自分をチェックするために、次の指標をご段階で評価してください。

**5** :とてもそう思う      **4** :まあまあそう思う      **3** :どちらとも言えない  
**2** :あまりそう思わない      **1** :そう思わない

- ①自分の性格・関心・能力を理解している。
- ②自分の良さを受け入れることができる。
- ③今の自分を築いてくれたこれまでの出会いに感謝することができる。
- ④自分の考えを論理的に他者に伝えることができる。
- ⑤話合いや発表の場で、自分の意見を述べるができる。
- ⑥他者と協力して、ひとつの仕事に取り組むことができる。
- ⑦社会の出来事に関心を持っている。
- ⑧将来、自分を社会に活かそうとする意欲がある。

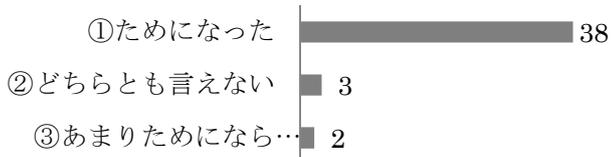
- ⑨社会問題を意識して、身近なところから行動することが出来る。
- ⑩隣人の喜びや悲しみに共感することができる。
- ⑪思いやりを持って人に接することができる。
- ⑫奉仕活動やボランティアに積極的に参加することができる。
- ⑬苦手な教科の克服のために努力することができる。
- ⑭学力向上のために計画的に学習に取り組むことができる。
- ⑮将来の進学や就職を意識して学習に取り組んでいる。



## 分 析

- 1 2年生、3年生に比べて、1年生の伸び幅が大きい。
- 2 全体的に、②の自己肯定感が低い。
- 3 一方で、これまでの出会いへの感謝の念は強い。
- 4 コミュニケーション力に苦手意識を持っている生徒が多い。
- 5 1年生は、⑧⑨の伸び幅があり、社会に関わる体験が影響したことが考えられる。
- 6 全体的に⑩⑪の思いやり、優しさを持った生徒が多い。
- 7 全体的に、⑬⑭の学習への取り組みに対する自己評価は低い。
- 8 学校生活への意欲や社会への関心が高まっているものの、自己肯定感が低く学習への積極的取り組みにはつながっていない。

## キャリアプランニング・セミナー



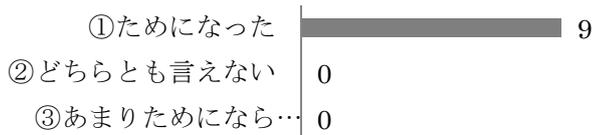
## 《生徒のコメント》

- ・将来大切なことを教えていただき、とてもためになった。
- ・親や先生以外の大人の話聞く機会は今までなかったから新鮮だった。
- ・夢の築き方で、とても励まされる言葉を頂いた。  
など

## 《担当者の総括コメント》

- ・いろいろな職業人と触れ合う体験は、生徒にとって新鮮で貴重な機会だったようだ。
- ・生徒にとって「大人」といえば、「親」と「教師」に限られることが多いが、それ以外の社会で活動する大人と接することは、多くの生徒にとって良い刺激を与えたことが感想から分かった。

## 野外環境コミュニティ体験講座



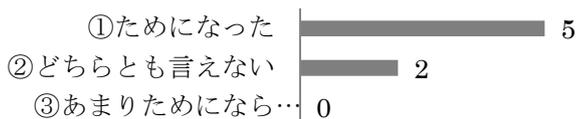
## 《生徒のコメント》

- ・実際に現場に行き、地域の方と交流が出来たり、貴重な体験をすることができた。
- ・多くの人と交流を持てるからコミュニケーション能力が上がった。
- ・ボランティア活動に参加することで、社会の一員という意識を持てた。  
など

## 《担当者の総括コメント》

- ・10人の申し込みで始まったが、次第に参加人数が減り、常時参加していたのは4、5人だった。
- ・参加した生徒にとっては、被災地や地域の人々に触れる機会になり、学校から外に出たからこそその貴重な体験になった。
- ・被災地へ赴くためのバス代や謝礼金、生徒の体力などから考えると、来年度の継続は難しい。他のプログラムを通して、社会と関わる体験を取り入れたい。

## 施設訪問



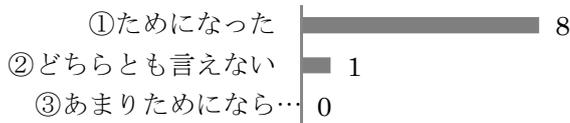
## 《生徒のコメント》

- ・年配の方々のお話を伺ったことでとても楽しい時間を過ごせた。
- ・こういった機会がなかったので、いろいろなお話を伺ってとても嬉しかった。  
など

## 《担当者の総括コメント》

- ・参加者総数は多くはなかったが、入所者との話に興味関心を持ち、繰り返し訪問する生徒が目立った。
- ・単に訪問するだけでなく、クリスマスカードなど手作りのものを持参し、ボランティアの幅を広げた。
- ・より充実した事前指導の必要性を感じた。この企画は継続予定なので次年度に活かしたい。

## With Kids ボランティア



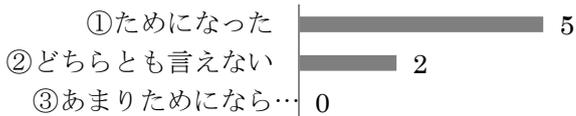
### 《生徒のコメント》

- ・子供たちと交流し元気いっぱいになった。
- ・将来の夢が保育関係なので、とても良い体験ができた。
- ・いろいろな子供がいて、接し方とか勉強になりました。
- ・普段、子供たちと関わる機会がないので、児童館の体験は、子供が好きな私にとってとても良い活動になった。  
など

### 《担当者の総括コメント》

- ・生徒にとって、自分より年下の子ども達と接する機会は、とても貴重な経験になったようだ。
- ・幼児教育方面への進学を考えている生徒にとっては、自分の進路を確認する意味でよい体験となった。

## 大学生との交流



### 《生徒のコメント》

- ・将来のことで、早めにやった方がいいことや経験しておいた方がよいことなどが聞けた。
- ・卒業生と会話をしていて楽しかったし、将来について考えることが出来た。
- ・情報誌やネットでは分からない学校内部の様子が聞けた。
- ・卒業した先輩方がとても楽しそうに大学の話やエンカレッジでのことを話していて共感できることが多かった。  
など

### 《担当者の総括コメント》

- ・今年度は、卒業生が2回、(卒業生ではない)仙台白百合女子大の学生が2回、計4回交流会を行った。
- ・仙台白百合女子大の学生は、今年度はゼミの関係等でスケジュールが合わないようだった。
- ・EC出身の卒業生との交流は、高校時代の話も交え、特に親近感を抱いた生徒が多かったようだ。
- ・次年度は、「卒業生の話」と「大学生との交流会」の2本立てで考える予定。

## 《スクーリング》について

### 全体的な感想

- ・先生たちのお話がとても身に沁み、しっかり学ぶことが出来た。
- ・一人一人に向き合って時間を使ってもらえる所が良いと思いました
- ・スクーリングで休んでしまっても、集中スクーリングで学べる所が良いと思った。
- ・先生たちが私たちの体調を気遣いながら詳しく見て下さって嬉しいです。
- ・レポートについての授業が増え、とても分かりやすくなった。 など

### 要望

- ・スクーリングの回数を増やしてほしい。
  - ・とても充実した時間になっているが、スクーリングが前期、後期併せて2回など、少ない時間のものは内容が詰め込みすぎでついていけないこともある。
  - ・数学のレポートは教科書だけでは解けないので、授業を増やしてほしい。
  - ・数学や古典など、難しい科目はもう少し授業時間を増やしてほしい。 など
- ・もうちょっと教科書を使ってほしい。
- ・あててほしい。面白い授業をしてほしい。 など

### 科目ごとの感想

- ・宗教のスクーリングがとても面白く楽しかった。特にマール吉田先生のお話や聖書のお話を聞くのが楽しかった。
- ・体育のスクーリングが体を動かして楽しかった。 ・音楽の授業が、のびのび歌うことができて楽しかった。
- ・社会と情報のスクーリングが面白かった。(特にポストカード作成)
- ・現代文のスクーリングでは、大学入試の問題を解き、自分の不得手を理解することができました。
- ・数学で公式とかを分かりやすく説明してくださるので、数学に対しての抵抗感みたいなものがなくなりました。
- ・政治経済ではその時話題になったニュースを題材に自分の考えを書いてみるというのが勉強になりました。
- ・日本史Bの荘園についてとても分かりやすかった。 ・コミュ英Iは回数が多く分かりやすかった。 など

## 《EOP》について

### 感想・要望

- ・せっかくなので、皆とコラボするのをやりたかった。
- ・先生たちが苦手なことをより分かるように協力してもらえてありがたいです。
- ・先生たちが私たちの体調を気遣いながら詳しく見て下さって嬉しいです。
- ・自分の苦手な部分を解決できてよかった。
- ・受験対策のEOPがあったら嬉しい。
- ・パソコンを使用して楽しめるEOPがあればいいと思う。 など

### 講座ごとの感想

- ・音読講座では、英語が上達するポイントやノートの取り方を丁寧に教えてくれ、参考になります。
- ・キソ小論文の講座をとって、分かりやすい小論文の書き方を説明してもらえたのでよかった。
- ・アロマ体験講座はとても癒される時間だった。
- ・古典と百人一首は、昔の文化に触れるワクワクする時間だった。
- ・パッチワーク講座は、明るい講師の方と楽しい話をしながら手芸が出来て、とても楽しかった。
- ・ドラムの講座がすごく楽しかった。フランス語は第二外国語として、もっと勉強したいと思った。
- ・体を動かすEOPに参加することで、普段しない運動ができた。
- ・佐分利さんの英語がとてもよかった。 など

## 《自分の変化と諸活動との関係》

- ・キャリアプランを通して将来に対して前向きに考えるようになった。
- ・キャリアプランでは、いろいろな講師の方の話を聞いて考え方は何通りもあり自分の中での視野が広がりました。
- ・スマイルシードを通して、ニュースを見るだけでは分からないことを知ることが出来た。
- ・with kids の活動では普段、子供たちと触れ合うことがないので良い経験になりました。子供たちのことを色々知ることができて、人との関わりの幅が広がりました。
- ・大学生と話していて、勉強が辛くても陰で努力して大学生になったのだと分かり、同じ人間だから自分ももっと頑張れるだろうと思えるようになった。
- ・総合学習の時間を通して、自分の考えがスムーズに言えるようになり前に出て発表ができるようになりました。前までは少しためらって前には出なかったのですが。 などなど

## 《ECの学びが、自分の生き方や進路に与えた影響》

- ・キャリアプランを通して、マイナス思考や、こうしなくてはいけないというような考えをなくすことが出来た。
- ・スマイルシードで、自分から動くこと、人に支えられていることを自覚することを学んだ。
- ・友達が増えたことで、色々な考えができるようになったと思う。
- ・先生です。今まで自分を否定ばかりしていたけど、学校に通うことで自信が付き、少し自分を認められるようになった。
- ・宗教の授業を受けてから、聖書の言葉が生きる励みになりました。
- ・6Cs (collaboration、communication、contents、critical thinking、creative innovation、confidence)について考えたとき、ECでの学びがたとえ contents(読み書き)中心でも、他の5つを感じることができた。 など

## 《要望や、改善してほしいこと》

スクーリングについて → 回数や内容についての要望 (前述のスクーリングについての感想・要望とほぼ同内容)

### 学習室について

- ・学習室 A の机を少しふやしてもらえたらいいなと思いました。
- ・学習室がもう少し静かだったらいいかなあ。
- ・学習室 B は話すだけの部屋になっていて勉強ができない。 など

### その他

- ・大学生との交流は、進路についても沢山の情報が得られるため、もっと機会を増やしてほしい。
- ・スクールバックをリュックのように使っている 2 年生と、リュックを使っている 1 年生がいるので良いのかなと思った。
- ・学習室 A、B の他にもう一つ部屋があるといい。 など

(下に記載した文は、そのままではなく要約して載せています。)

### 1 エンカレッジコースに入学してから、お嬢様のどのようなところが変化しましたか。

- ・性格、表情が明るくなり、考え方が前向きになった。
- ・自分の居場所が出来た。
- ・話せる友人ができた。
- ・気持ちに余裕ができた。
- ・自分を見つめ直す時間ができた。
- ・進学に対する気持ちが高まってきた。
- ・気持ちにゆとりができ、学校生活を主体的に考えることができるようになった。
- ・自分で判断して行動できるようになった。
- ・親とコミュニケーションがとれるようになった。
- ・精神的に落ち着きを取り戻し、嫌なことがあっても引きずらなくなった。
- など

### 2 エンカレッジコースの取り組みについての感想をお書きください。

- ・一人一人に合った無理のない指導をしていただいている。
- ・個人に合わせての取り組みのおかげで、前向きに頑張れている。
- ・「スマイルシード」や「施設訪問」など、学校ではない場所に出ていく体験は大切。
- ・EOPや遠足など、勉強以外にも様々な体験ができて活動の幅が広がった。
- ・全日制では経験できないような特別活動が充実している。
- ・EOPやボランティア活動を通して、沢山の経験ができたようだ。
- ・EOP、セミナーなど生き方を模索するうえで貴重な体験ができた。
- ・ボランティア活動で、まったく知らない方とコミュニケーションを取ることができた。これからも、外に目を向ける機会をどんどん増やしていただきたい。
- ・多種多様な行事やEOPが用意されていて、気軽に参加しやすい雰囲気がとても良いと思う。

など

### 3 要望

- ・レポートの評価の仕方やスクーリングの内容の充実について
- ・頭髪、制服の着方の指導の仕方について
- ・保護者会の在り方について (保護者同士、話す機会を設けてほしい)
- ・集中スクーリングで来る保護者の集まりについて
- ・1クラスあたりの人数について
- ・修学旅行について
- ・白百合の他の姉妹校にも、エンカレッジコースができるとよい

など

通信制として必要な支援 (ECコースの目的)	これまでの取り組み	評価と今後の方向性
1 単位の修得と高校卒業の支援(主にシステムの事)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スクーリング設定の工夫</li> <li>・教務内規の整備</li> <li>・視聴教材の使い方 など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スクーリングの回数、視聴教材の使い方など現在の形式を継続</li> <li>・45分授業への対応、必要</li> </ul>
2 学習指導と、進路達成のための支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別の学習指導、進路指導</li> <li>・HRでのクラスごとの進路指導</li> <li>・教員の進路研修会参加 など</li> <li>・受験生に対するチームを組んでの指導 (小論文指導、面接指導など)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年1回程度は「進路がイダンス」(外部発注)が必要では?(保護者も参加可能に)</li> <li>・出前授業や卒業生をキャリアプランングに加える方法は?</li> <li>・3年間の進路指導の流れがあると良い。</li> <li>・生徒が能動的に進路を考える方法を重視すべき</li> <li>・多様な生徒→一斉指導と個別指導のバランスの難しさ</li> <li>・「質問タイム」の設定などの工夫は?</li> </ul>
3 登校できない生徒、問題を抱えた生徒への支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門家との連携(教員研修、研修会への参加、カウンセラーとの連携)</li> <li>・家庭との連携 ・担任面談など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援員などの設置は費用を考えても難しい。</li> <li>・現在の担任による支援で十分ではないか。</li> <li>・保護者の気持ちの安定が生徒の安定にもつながる</li> </ul>
4 視野を広め社会性やコミュニケーション能力を身につけさせるための支援	<p>文科省委託事業に絡めた体験活動やEOPなど</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文科省委託事業終了に伴い大幅な精選が必要</li> <li>・「毎週・隔週・単発」を整理しEOPに組み込む案</li> <li>・EOPとキャリアの2本立ての案</li> <li>・「保健・衛生」に関する講座も必要(合同HR?)</li> </ul>
5 カトリック校としての「建学の精神」を生徒の心に育む	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行事の充実 ・「宗教」の充実 など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校歌や聖歌を歌えるようにして卒業させたい。</li> <li>・「宗教」の時間の幾つかを、「宗教音楽」にして聖歌指導をすることはできないか。</li> </ul>
6 保護者の心の支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者会でのクラス懇談</li> <li>・専門家による保護者講話会 (今年度は年2回)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者としての自分に否定的な親を元気づける必要</li> <li>・保護者同士で話し合うことで安心することが多い</li> <li>・茶話会やステラでの昼食会のようなものを設定?</li> </ul>
<p>《その他、整備、充実させなければならない事項》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教室、校舎</li> <li>・教員数</li> <li>・募集、広報</li> <li>・教務、進路等に関する内規</li> <li>・特活(行事・生徒会・ホームルーム)など</li> </ul>		

◆来年度、実施が必要な取り組み → 学習指導、進学指導、体験学習などのバランスを考えると下記の内容が考えられる

- 1 進学指導面 ----「進学ガイダンス」(大学、入試形態、小論文、面接などに関する情報)---任意参加、保護者も参加可能  
ベネッセは(全員が模試を受けていなければ)有料、他の業者を探す
- 2 進路指導・生き方 → 卒業生の話(複数回)
- 3 校内体験学習 → ・スプーン+カレー(工藤さん) ・お菓子(吉田さん) (それぞれ前期1回、後期1回程度か)
- 4 ボランティア体験 → ・炊き出し(学校設定科目として) ・With Kids  
・施設訪問 (暁星園を継続する方向で検討、立案)
- 5 学習指導面 → 「質問タイム」(普段は質問しにくい生徒のために) → 木曜の午後か? (専任講師のみ待機)  
◆EOPは現在の形で継続 ◆スマイルシードは終了

本校が開設され、4 年間に経過した。昨年度は、途中転入学者を含め 28 人の生徒が卒業し、今年度は 27 人が卒業する。その中から、主に 3 年間に本校で過ごした生徒達の成長過程を追い、どのような要因が生徒たちに影響を与えたのかを考察した。一人一人の成長過程を記した記録は個人情報であるため記載せず、「考察」のみを掲載する。

## 《考 察》

今回、調査の対象にした生徒を含め、本校通信制課程に入学してくる生徒が抱えている主な事情として、次の点をあげることができる。

### 〈中学校からの入学者〉

- ・いじめや、友人、教師とのトラブルなどが原因で、登校できなくなった。
- ・人間関係がうまく築けないため、集団生活を避け登校しなくなった。
- ・起立性調節障害、発達障害などの精神的疾患を抱えている。
- ・学習障害があるため、授業についていけず登校しなくなった。
- ・病弱で治療、休養を必要とし、毎日、学校へ通えない。 など

### 〈高校からの転入学者〉

- ・中学校時代から不登校気味だった生徒が全日制高校に進学したが、新しい環境に適応できず、再び不登校状態に陥った。
- ・中学校時代は順調に登校していたが、高校進学後、いじめや、友人、教師とのトラブルなどが原因で登校できなくなった。
- ・高校進学後、病気を発症し、毎日、学校に通う全日制高校には通学できなくなった。 など

彼女たちに共通しているのは、不登校状態に陥った自分に対する自己否定的な感情だが、決して向学心や進路意識を無くしているわけではなく、「高校生活を送りたい」、「友人を作りたい」、「高校を卒業したい」、「大学へ進学したい」、などの希望は失っていない。そのような生徒たちに、全日制高校とは異なる視点で学習の場を提供する役割を果たすのが「通信制高校」であると考ええる。

毎日学校に通い集団生活を強いられる全日制高校とは異なり、スクーリングとレポートで単位を修得する通信制の学習スタイルにはゆとりがあり、1 人ひとりのペースに合わせた学習の場を提供できる。本校の通信制が、生徒の学校生活への意欲、進路意識の向上に影響を与えた要因としてあげられるのが次の事項である。

- ・週 1,2 回程度のスクーリング → 体調や自分のペースに合わせて登校できる。
- ・集団生活を強いる場が少ない。 → 人間関係で悩まない、気持ちに余裕ができる。  
自然に友人ができる環境がある。
- ・女子だけの落ち着いた学習環境 → 安心感があり、女子の特性が育つ。
- ・スクーリング以外にも、豊富な社会体験の場がある。  
→ 友人や社会の人々と接し、視野が広がり、協働する場やコミュニケーションをとる場が増える。
- ・教員による 1 人ひとりを大切にサポート → 生徒の心を安定させ、自尊感情を育てる。
- ・学園の土台にあるキリスト教の精神 → 生き方の基本となる心の持ち方を学べる。

今回、調査対象にした生徒や他の生徒、卒業生の多くが、本校通信制課程のこうした特色に良い影響を受けているものと推察できる。しかし一方で、本校にも適応できず登校できない生徒、在籍しているもののアルバイト等に励んでいて学校に気持ちを向けられない生徒も若干名いて、こうした生徒への対応が今後の課題である。

### (3) 外部助言者を招いてのアセスメント検討会議の内容

#### ①中間アセスメント検討会議

日時 平成 29 年 10 月 6 日(金) 10:00～12:00  
場所 グローバル・ビュー・センター

- 内容
- 1 今年度の事業計画と、  
昨年度のアセスメントの結果確認
  - 2 今年度のこれまでの取り組み (スライド)
  - 3 今年度の課題の中間報告
  - 4 質疑と助言



出席者	高橋 満	東北大学大学院教育学研究科 教授
	牛渡 淳	仙台白百合女子大学 人間学部 教授
	渡辺 瑞穂	仙台白百合学園 小学校・中学・高等学校 校長
	阿部 和彦	仙台白百合学園高等学校 通信制課程 教頭
	宮崎 哲	仙台白百合学園高等学校 通信制課程 教諭
	清田 拓郎	仙台白百合学園高等学校 通信制課程 教諭
	鈴木 有子	仙台白百合学園高等学校 通信制課程 教諭
	渡邊 優子	仙台白百合学園高等学校 通信制課程 教諭
	戸村たつひ	仙台白百合学園中学・高等学校 養護教諭

#### 《質疑と助言の内容》

##### 保護者の声を聞き分析することの必要性

- ・ EC コースの指導に対する保護者の感じ方はどのようなものか? 様々な事情を抱えた生徒の保護者が、EC の体験学習について、また学習指導についてどのように感じているか。

##### 障害を持った生徒の大学での対応について

- ・ 様々な障害を持った学生は大学でも増加している。入試やその後の指導も、個別に対応している。書字障害の生徒の入試時の配慮については、各大学によって異なるので問い合わせてみるとよい。

##### 文科省からの委託が終わる次年度からのプログラムの精選について

- ・ 委託期間に築かれた講師との人間関係が、委託終了後も継続されることを期待する。
- ・ 卒業生や保護者の中から、少ない謝礼で引き受けてくれる良い人材を発掘できるのでは。

##### ほとんど登校できず体験学習等に参加できない生徒が多い現状について

- ・ 精神科医や医療機関と家庭、学校との連携が必要
- ・ 学校でも個別の体験活動など工夫が必要
- ・ 通信制高校と特別支援学校は異なるので、教員がどこまで関わるかは難しいところ。
- ・ ICT を利用して、学校・同級生とつながりを持つという方法もある。
- ・ 専門家との定期的な情報交換など、制度化することも有効。

##### これまでの EC の取り組みと今後の研究の方向性

- ・ PDCA サイクルを有効に取り入れ、前年度の取り組みの改善もなされ、バージョンアップしている。しかし、人間関係を通して社会性を取り戻そうとするグループアプローチだけでは対応できない生徒も多く、個別の指導方法の探究が必要。
- ・ アセスメントの方法にしても、全体の変化からの分析に加え、個別のケーススタディーからの分析も必要。専門家、担任、家庭などとの関連がどのように生徒を変化させたか、など個別のケースを評価することが必要。
- ・ エンカレッジコースの今後の在り方としては、体験学習の充実に加え、症状が重く登校できない生徒への対応を充実させることが必要ではないか。
- ・ EC コースから進学した生徒が、進学先でどのように変化しているか、追跡調査をする研究も興味深い。(仙台白百合女子大学は十分な情報交換ができる。)

## ②アセスメント検討会議Ⅱ

日 時 平成 30 年 1 月 29 日(月) 10:00～12:00  
場 所 グローバル・ビュー・センター

- 内 容
- 1 昨年度のアセスメントの結果確認
  - 2 今年度の取り組みについて
  - 3 今年度のアセスメントの結果について
  - 4 質疑と助言



出席者	高橋 満	東北大学大学院教育学研究科 教授
	牛渡 淳	仙台白百合女子大学 人間学部 教授
	渡辺 瑞穂	仙台白百合学園 小学校・中学・高等学校 校長
	阿部 和彦	仙台白百合学園高等学校 通信制課程 教頭
	宮崎 哲	仙台白百合学園高等学校 通信制課程 教諭
	清田 拓郎	仙台白百合学園高等学校 通信制課程 教諭
	鈴木 有子	仙台白百合学園高等学校 通信制課程 教諭
	渡邊 優子	仙台白百合学園高等学校 通信制課程 教諭
	戸村たつひ	仙台白百合学園中学・高等学校 養護教諭

### 《質疑と助言の内容》

#### 今年度の取り組みの成果と課題

- ・ いろいろな取り組みに挑戦し、成果は見られる。視野が広がり、自信が生まれ、目標につながった。
- ・ レーダーチャートを通して生徒の変化を見ると、学校生活への意欲や社会への関心が高まっているものの、自己肯定感が低く学習への積極的取り組みにはつながっていない。これらをどう結び付けていくかが課題。
- ・ 様々な体験活動に取り組み、一定の効果があつたようだが、こうした活動は、学習者が自ら計画し、その成果を振り返り、発表(自己表現)することで達成感や自信につながる。生徒自身かプロジェクトチームを作り外部の方々とも連携して計画を練り行動することは良い効果を生むことになるのではないか。

#### 積極的に学習に参加できる生徒と、登校が難しい生徒が混在している状況への対応について

- ・ 通信制は、ある意味では全日制と特別支援の中間に位置している。特別支援との連携や、全日制との交わりができないか。
- ・ 白百合の通信制は、同じ校舎の中に全日制と通信制がある。このことを逆に利用して通信制の生徒に新しい教育の機会を与えることはできないか。
- ・ 自己表現が苦手な生徒には、パワーポイントなど、パソコンを使ったプレゼンテーションは有効。今や、ICT は、「個別」の学習と「協働」の学習を結び付けるツールになる。インターネットを活用すれば、国境を越えた「協働」の道具ともなる。
- ・ 現代の社会に対応した通信制教育の在り方として、ICT を効果的に活用することが考えられる。例えば、ある美術館に展示されているものを学習する場合、直接、美術館に行けない生徒は、ICT を活用して学習することができる。様々な症状の生徒がいるエンカレッジコースは、ICT を活用することによって多面的な教育を提供できるのではないか。

## **本校通信制〔エンカレッジコース〕の今後の方向性について**

- ・今、世界の学校教育の在り方は変化している。これまでの「フォーマル・エデュケーション」という従来の形態から、学習者の自発性を重視する「インフォーマル・エデュケーション」や、社会に参画し人と人との相互作用から自ら学びとる「ノンフォーマル・エデュケーション」が注目されている。
- ・生徒に習得させる“学力観”も、「知識」から「課題解決力」「コミュニケーション力」「調整力」などを重視する流れに変わってきている。
- ・通信制課程〔エンカレッジコース〕は、新しい学力観、新しい学校観を実験する場として、学校教育の新しい姿を見せることができるのではないかと。
- ・今年の8月末から9月にかけて、「日本教育学会」が仙台で行われる。仙台の特色ある学校として東北大学付属小・中学校と仙台白百合学園中学・高等学校が紹介される予定だが、この時に、SGH（スーパー・グローバル・ハイスクール）だけでなく、学園として同じ理念の下に設立された「通信制課程エンカレッジコース」も紹介するとよい。

## 4. 総括と改善案策定

### (1) 今年度の取り組みについての総括

- ・〔生徒の学習意欲の向上〕 今年度の様々な取り組みを通して、「本校に入学する前に比べて学校生活を意欲的に送ることが出来るようになった」生徒は、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」を合計すると、80%以上の生徒が学校生活に意欲を持つようになった。
- ・〔学習への積極的取り組みと自己肯定感の低さ〕 体験活動を通して学校生活への意欲や社会への関心が高まっているものの、学習への積極的取り組みにはつながっておらず、それが起因するのか、自己肯定感は相変わらず低いままである。よって、学習指導、進路指導面の工夫やより一層の充実した取り組みが求められる。
- ・〔教員の生徒・保護者に対する姿勢〕 生徒、保護者の感想から、教員に日々大切にされていることへの感謝の気持ち読み取れる。そのことが、生徒心を安定させ、上記の学校生活への意欲につながったものと思われる。
- ・〔社会体験が伴う学習プログラムの効果〕 今年度の取り組みの中でも、特に生徒に影響を与えたものとしてあげられるのが、昨年度に引き続き、「野外環境コミュニティー体験講座」や「キャリアプランニング・セミナー」「施設訪問」「With Kids ボランティア」「炊き出しボランティア」などの、社会で活動する人々と接し、学校の外で行う社会体験が伴うプログラムであった。
- ・〔生徒の進路意識の向上に寄与したプログラム〕 「自分の生き方や進路に影響を与えたもの」としても、上述の社会体験プログラムがあげられる。また、カトリック校として行っている必修科目「宗教」や教師の生徒への接し方も生徒の生き方に影響を与えていることが分かった。
- ・〔生徒の進学状況と学習プログラムの関係〕 今年度は27人が卒業したが、そのうち、体調により進学しない生徒を除けばほとんどの生徒が、大学、短大、専門学校等に進学した。生徒の記述式自己アセスメントを見れば、今年度の学習プログラムが、生徒の進路意識の向上に寄与したことが分かる。
- ・〔学習プログラムの運用の仕方と、通信制という教育システムを活かす方法〕 上記の学習プログラムの運用の仕方として今年度行ったのは、スクーリングを週2回(水曜・土曜)に設定、主に月曜日は校外での学習プログラムに、火、木、金は、校内で行う学習プログラムに充てた。こうすることで、週1,2回程度のスクーリングのための登校日以外の日を体験的プログラムに利用し、通信制という柔軟な教育システムを最大限に活用する方法をとることができた。
- ・〔登校できない生徒への対策〕 学習プログラムに積極的に参加した生徒には資質の向上が見られるが、一方で様々な理由で登校できずスクーリングが精一杯という生徒もいてその格差は大きい。今年度は、そうした生徒のために、可能な講座を選び内容を縮小して、生徒が登校したときに個別に対応した。また、専門家の力を借り、保護者との連携を強め、生徒1人ひとりに対応した。
- ・〔探究活動の重要性〕 グローバルスタディーズや情報応用などの探究活動によって、生徒の学習に取り組む主体性、積極性が育成された。
- ・〔教員研修の必要性〕 今年度は、昨年度の改善計画に沿って、精神科医や臨床心理士等の専門家による教員研修を行った。次年度は、同様のテーマに加えて、ICT技術の活用などを含め、「現代社会に対応する通信制」などのテーマでも研修を行いたい。また、全通研、地区通研主催の研修会は、教員の視野を広め、生徒を支援するための資質を向上させるものとして有用であった。
- ・〔保護者の教育力の向上〕 保護者にとっても、本校に入学してからの子どもの変化には概ね、肯定的に捉えている。また、保護者対象の研修会などに対する評価も高い。

## (2) 次年度に向けての改善案

### 学習プログラムの設計と立案について

平成 27 年 12 月から平成 30 年 3 月までの文科省からの委託研究により、外部機関と連携した様々な体験活動が生徒の成長にとって極めて有効なことが実証された。しかし、アセスメントから分かったことは、「体験活動を通して学校生活への意欲や社会への関心が高まっているものの、学習への積極的取り組みにはつながっておらず、それが起因するのか、自己肯定感は相変わらず低い生徒が多く存在している」ということである。そこで、この委託研究が終了し次年度の計画を立案するにあたってあらためて考慮しなければならないのは、校外、校内における体験活動を継続することに加えて、体験活動と学習指導、進学指導のバランスを取ることである。研究委託期間は、体験活動を特に重視してきたが、そうした活動を通して学習意欲を回復させてきた生徒に対して、実際に学習指導、進路指導を充実させることは重要で、次年度はそのための取り組みにも十分時間をとってきたい。

また、情緒的、精神的な理由や病弱等の理由でほとんど登校できない生徒も複数、存在し、そうした生徒への配慮や取り組みも検討しなければならない。さらに、アルバイト等の理由で、全く学校生活に目が向かない生徒も若干名いて、その対策も急務である。

以上の観点から、来年度以降は、以下のような取り組みを計画している。

### 平成 30 年度の新しい取り組みと課題

#### 1 文科省委託事業「多様な学習」の終了と継承

★30 年度の基本方針→学習指導、進学指導、体験学習などのバランスを考えた取り組み

- ①進学指導面 ---「進学ガイダンス」(大学、入試形態、小論文、面接などに関する情報) の新設
- ②進路指導・生き方 → 卒業生の話(複数回)
- ③校内体験学習の一部継続 → ・木製スプーン+薬膳カレー作り ・パティシエによるお菓子作り実習
- ④ボランティア体験の継続 → ・炊き出し(学校設定科目として) ・With Kids ・施設訪問
- ⑤学習指導 → 「質問タイム」(普段は質問しにくい生徒のために) の新設
- ⑥EOP(エンカレッジ・オリジナル・プログラム)の継続と充実

#### 2 特別な配慮が必要な生徒への支援方法の検討

・生徒増 → 病弱、情緒上の理由で特別な配慮が必要な生徒の増加 → 家庭・学校・専門家との連携強化

#### 3 不活動生への対策

・不活動生への働きかけの方法の研究と、履修方法や除籍等の内規の検討

#### 4 全国高等学校通信制教育研究会を通じた活動の充実

→ H30 年度「東北・北海道地区高等学校通信制教育研究会」で発表予定(10 月)

#### 5 「不登校に関する講演会・研究会」+「学校紹介・研究発表会」の開催

#### 6 教員研修の充実

今年度は臨床心理系の研修を 2 回実施したが、次年度は「臨床心理系」と「現代社会に対応する通信制」等の 2 つのテーマで研修会を企画する予定

#### 7 保護者に対するセミナーの充実

精神医学、性教育、臨床心理などの専門家も含め、保護者にとって有用なセミナーの内容を幅広く検討する。

#### 8 アセスメントの充実

この委託研究で開発した「生徒による数値的自己評価」や「記述式アセスメント」に加え、今回実施した「生徒 1 人ひとり进行分析するケーススタディー」や、を姉妹大学と連携し、卒業後の追跡調査などのアセスメントも検討する。

## 調査研究を終えて

平成 27 年 12 月に文部科学省から委託された調査研究が、平成 30 年 3 月に終了しました。「外部機関と連携した通信制の支援体制の構築とアセスメントの方法の開発」というテーマのもと、多くの方々の協力を得て、無事、調査研究を終えることができました。

この調査研究を通して連携した外部機関の方々は、生徒たちを大きく成長させてくれました。アセスメントによって分かったことは、学校、教員という枠を超えて、社会で様々な活動をしている方と接することが、生徒に大きな影響を与えるということでした。

東日本大震災直後から被災地の人々に寄り添い、若い人々にも呼びかけながら復興支援活動を行っている NPO の代表の黄本富士子さん、自然を愛し木々に思いを馳せながら味わい深い木工家具を創作する家具職人の工藤博さん、社会の底辺に目を向け、路上生活者の社会復帰のために炊き出しに尽力する芳賀ヒロ子さん、その他にも、生徒たちは多くの魅力的な人々に会うことができました。彼らの言葉や行動には説得力があり、彼らの生き方そのものが生徒たちに多くのことを伝えてくれました。

生徒たちは、学校から離れようとしたり、自己を否定したりする時期があったとしても、必ず自分の中に、「学びたい」「成長したい」という希望を抱いています。その灯を光へと導くのは、時には学校ではなく、今この時、様々な思いを抱き社会に立ち向かっている人の生き様なのかもしれません。

この調査研究は終了しますが、これからも、多くの社会の方々とつながり、チーム学校として教育の幅を広げ、生徒の成長を見守っていきたいと思っています。この調査研究を通して生徒に関わっていただいた多くの方々に深く御礼を申し上げます。

平成30年3月  
仙台白百合学園高等学校 通信制課程  
教頭 阿部和彦



仙台白百合学園中学・高等学校